

令和7年度卒業論文

滋賀県米原市における「(ヤ)アル」の使用状況とその実態について

広島大学文学部人文学科  
日本・中国文学語学コース  
日本文学語学専攻  
B223249 石河野々華

## 目次

1.はじめに.....	1
2.先行研究.....	2
2.1 近畿地方における素材待遇形式.....	2
2.2 滋賀県における素材待遇形式.....	4
3.調査方法.....	6
4.「(ヤ)アル」の普及実態と使用意識調査.....	7
4.1LINE を用いての調査.....	7
4.2 Microsoft Forms を用いての調査.....	10
4.3 Microsoft Forms 調査の結果.....	13
4.3.1 素材待遇形式の使用実態.....	13
4.3.2 対者待遇.....	15
4.3.3 第三者待遇.....	16
4.3.4 対者待遇と第三者待遇での使用意図の違い I.....	17
4.3.5 「(ヤ)アル」の優先度について.....	19
4.4LINE・Microsoft Forms 調査のまとめ.....	21
5.談話調査.....	22
5.1 表記について.....	23
5.2 調査結果.....	24
5.2.1 待遇対象について.....	24
5.2.2 「(ヤ)アル」と接続する動詞について.....	31
5.2.3 「(ヤ)アル」の発音について.....	36
5.2.4 対者待遇と第三者待遇.....	37
5.3 談話調査のまとめ.....	39
6.面接調査.....	39
6.1 調査結果.....	40
6.1.1 「(ヤ)アル」の待遇対象について.....	40
6.1.2 対者待遇と第三者待遇での使用意図の違い II.....	43
6.1.3 「(ヤ)アル」の発音について.....	46
6.2 面接調査のまとめ.....	46
7.調査のまとめと考察.....	47
7.1 米原市の「(ヤ)アル」の使用状況.....	47
7.2 湖北地域の使用状況.....	48
8.おわりに.....	49
9.参考文献・参考資料.....	50

## 1.はじめに

京都府や大阪府を中心として使用される「(ヤ)ハル」は、全国的に非常に知名度の高い素材待遇形式<sup>1</sup>である。素材待遇形式とは、酒井(2015b)によると、「待遇対象(聞き手または第三者)に対して、話し手がその関係性もしくは評価・感情などを表すために、待遇対象の動作・状態を表す動詞に用いる言語形式のこと」(p.22)であり、西日本、特に近畿地方で盛んに用いられている表現形式である。本研究で対象とする「(ヤ)アル」は、尊敬の助動詞「(ヤ)ハル」の変化形と言われ<sup>2</sup>、滋賀県湖北地域<sup>3</sup>で主に使用されており、執筆者自身も頻繁に使用している方言である。

湖北地域に数多くの素材待遇形式が存在していることは、筧(1962;1982)などにより既に明らかになっているが、今日の若年層の間では「(ヤ)アル」がその使用の大半を占めており、その他の形式はそれほど使用されていないように思われる。また筧(1962;1982)は、「(ヤ)アル」を初め多くの素材待遇形式の文法解説を試みており、五段動詞には「アル」、五段動詞以外には「ヤアル」が接続すると指摘している。つまり、「行く(五段動詞)」の場合は「行かーる(イカール/イカアル)」、「見る(上一段動詞)」の場合は「見やーる(ミヤール/ミヤアル)」のように変化するということである。

執筆者の内省では、その場にはいない人の行動を言及する際に本形式は使用し、対者で使用することはほとんどない。AとBの会話内でその場にはいないCの話をするとき、具体的には「Cがご飯を食べた」という話をする際に、湖北地域では「Cがご飯食べやーた(ヤータ/ヤアタ)」という形式で表現するということである。

本表現の使用意図について、執筆者の内省によれば、対象となる人物の動作を丁寧に言及しようとする配慮が働いている。「Cがご飯を食べた」という言葉は、執筆者の印象では少し雑でぶっきらぼうな言い方である。「(ヤ)アル」を用いることで、「召し上がる」や「お食べになる」ほどではないが、簡単に敬意や丁寧さをこめることができるのである。

しかし、酒井(2015b)や坪井(2025)は対者に使用する場面が多いという結果を報告しており、その他でも執筆者自身の内省と一致しない結果が見受けられた。また、いずれも長浜市での使用のみを対象としており、米原市での運用に関して明らかにしている論文は、管見の限りでは見つけられなかった。したがって本研究では、米原市の若年層を対象として「(ヤ)アル」の使用状況とその運用について調査を行い、坪井(2025)の調査結果を踏まえ、湖北地域における「(ヤ)アル」の実態を明らかにすることとする。

---

<sup>1</sup> 「(ヤ)ハル」や「(ヤ)アル」は、「待遇表現」や「敬語」といった言葉で説明されてきたが、本論文では、酒井(2015b)の表記方針に則り、「素材待遇形式」という用語を採用する。なお「待遇表現」とは、「表現主体」が「環境」に配慮した結果、ある待遇レベルを決定し、自己の表現内容を伝えるのに最もふさわしいと思われる表現や表現手段を選択する、その表現のこと」であり、「ぬかす・ほぞく・言いやがる」などの「卑罵語」(軽卑語)や「○○ちゃん」のような親愛語などを含むもので、敬語よりも広いものである。(p.46)(菊地康人(2003)『朝倉日本語講座8 敬語』)

<sup>2</sup> 筧(1982)には「尊敬のハル・ヤハルの変化形アル・ヤアル」(p.59)、平澤(1986)には「上記-アル・-ヤール・-アルは、-ハル・-ヤハルの訛音形である」(p.145)という説明がある。

<sup>3</sup> 湖北 滋賀県の北東部に位置し、長浜市と米原市の2市からなる地域のこと。

## 2.先行研究

### 2.1 近畿地方における素材待遇形式

まず、「(ヤ)アル」の周辺の事情を整理する。先述の通り、近畿地方には多くの素材待遇形式が存在している。代表的なものとしては「(ヤ)ハル」があり、辻(2009)は「ハル」敬語を包括的かつ体系的に記述することに成功している。「(ヤ)アル」は「(ヤ)ハル」の変化形であるため、「ハル」敬語の使用状況を知ることは必須であろう。辻(2009)は、中年層女性話者の分析から、全体的な運用について以下のように述べている。

#### 《第三者待遇・くだけた場面における敬語運用》

- I.ハルと普通形式の二形式が二項対立的に使い分けられる。
- II.話し相手待遇として普通体・普通形式が使われる場面でも、話題の人には基本的に人の如何にかかわらず一律にハルが適用される。その適用対象は三人称の「人」のほぼ全体に及ぶ。
- III.普通形式は話し手とごく近い関係にある人か、心理的に極めて疎遠な人、ごく抽象的で非限定的な「人」といった非常に限られた範囲で適用される。
- IV.身内でない人(他人)を話し相手とする場合、話し手の直近の身内である尊属・卑属・夫属には原則的にハルを使用しない。
- V.ハルは話題の主語を対象として適用される素材待遇語であるが、その主語が話し相手であるか否かによりハルの適用が決まるという点で相手敬語の側面をもつ。(つまり、話し相手以外の話題の主語には基本的にハルを適用する。)
- VI.II.~IV.の基本的運用の枠組みを離れ、話し手の発話時の心的態度を反映し、何らかの待遇意図により、主体的に用いられる臨時的用法があり、高い頻度で活用されている。なお、この用法は話し相手待遇でも用いられる。(pp.357-358)

そして「ハル」の全体的機能を以下のようにまとめている。

#### 《ハルの全体的意味・機能》

ハルをつけて言及することによって、対象となる話題の主語が談話の場を構成している話し手や話し相手と対峙する三人称として少し隔て、同時に話し手と何らかの関りをもつ「人」であることを指標として示す「三人称指標機能」<sup>4</sup>を主に、主語を上げる「尊敬語機能」を従に、構成される中核的機能、および、「感情評価暗示」「親愛」「間接化」「擬人化」「強調」の派生的機能、「発見・驚き表示」の周辺の機能をもつ。 (p.358)

---

<sup>4</sup>引用内の傍線は執筆者による。

つまり「(ヤ)ハル」には尊敬語から派生した複数の意味が込められているとともに、その使用は第三者に偏っているということである。しかし、若年層女性では「尊敬語から派生した「特殊な待遇意図」にもとづくような用法はあまり盛んに用いられず、他の年層と比べ安定し習熟した敬語使用とは認められない」(p.359)とも述べている。本論文でも対象とする若年層が、方言使用については未熟であることを念頭に置いておきたい。

また、滋賀、京都、大阪、奈良における調査を通じて、近畿地方における素材待遇形式の使用が第三者に偏るという現象(第三者待遇偏用)を明らかにした論として、宮治(1987)が挙げられる。この現象は、「現代標準語の用法とは全く異なるとともに、現在全国各地で報告されている第三者に対する敬語の使用の衰えとも異質なもの」(p.39)である。本研究では滋賀県全土をフィールドとし、老齡層 200 名、高校生 256 名<sup>5</sup>にアンケート調査を行っている。括弧内の数字は、左が相手待遇、右が第三者待遇の用例数をあらわしている。

表 1 素材待遇語の使用率(滋賀県) 宮治(1987)

人物	語形	(行か)	(行き)	ア	レ	ナ	ヤ	ル	ル	ン
	ハ ル	ハ ル	ル	ル	ハ ル	ス	ル ・ ラ ル	ル ・ ヤ ル	ス	
老 年 層	近所の年上 (上・疎)	172 (69・103)		16 (4・12)	3 (2・1)	18 (16・2)	5 (5・0)	45 (1・44)	5 (0・5)	21 (11・10)
	父親 (上・親)	66 (15・51)		10 (2・8)		4 (3・1)	1 (1・0)	61 (1・60)	9 (0・9)	40 (15・25)
	近所の年下 (下・疎)	78 (23・55)		8 (1・7)		5 (5・0)	3 (3・0)	38 (0・38)	3 (0・3)	26 (9・17)
	孫 (下・親)	1 (0・1)			1 (0・1)			21 (0・21)	1 (0・1)	10 (1・9)
高 校 生	近所の年上 (上・疎)	139 (35・104)	1 (0・1)	83 (20・63)	34 (28・6)			6 (0・6)	42 (0・42)	2 (0・2)
	父親 (上・親)	43 (0・43)		39 (0・39)				5 (0・5)	46 (0・46)	24 (0・24)
	近所の年下 (下・疎)	12 (1・11)		7 (0・7)				1 (0・1)	26 (0・26)	41 (0・41)
	第か妹 (下・親)			3 (0・3)					14 (0・14)	24 (0・24)

注：(・)内の数字は待遇ごとの用例数を示す。左が話し相手待遇の場合、右が第三者待遇の場合。

<sup>5</sup>調査時(1985年)に高校生ということは、1967年生まれ以降と考えられる。また、老年層は70歳以上を対象としていると、1915年以前生まれと推定できる。

表1より、「(ヤ)アル」の使用が第三者に偏っていることは明白であり、その傾向は高校生により顕著にみられる。このことに関して宮治(1987)は、次のように述べている。

高校生が話し相手に対してあまり素材待遇語を用いないことと関連するものであるが、それと同時に、滋賀県方言に存在する素材待遇語の特異な用法が、高校生においてもよく保持されていることを示すものと見なすことができる。その要因としては、高校生が地域社会外での社会生活をまだほとんど経験していない年代であることがあげられよう。(p.43)

また、素材待遇形式の使用率は高齢層が勝っているものの、「(ヤ)アル」の使用率は高校生のほうが高くなっている。この当時において既に、使用される素材待遇語の数が減っていたということが理解できる。

## 2.2 滋賀県における素材待遇形式

近年は、酒井(2012;2014a;2014b;2015a;2015b)や坪井(2022;2024a;2024b;2025)が「(ヤ)アル」に関する研究を行っている。両者ともに長浜市をフィールドとしているが、明らかにしているところは異なっている。

酒井(2015b)は長浜市内生え抜きの1924年～1954年出身、当時59歳～88歳計33人を対象に、面接調査及び談話調査を行っている。酒井(2015b)が下した結論は、以下の通りである。なお、「ウチ」は身内、「ソト」は非身内を、「親」は「近所の」、「疎」は「他地区」を指す。上や下は上下関係を表している。

(ii)(ヤ)アル：

a.対者待遇：〈ウチ・下〉以外の人物に対して使用できる。使用率が高いのは〈親・上〉、〈疎・上〉、〈疎・対〉となり、〈ウチ・上〉〈親・下〉にはあまり用いられない。

b.第三者待遇：〈ウチ・下〉以外の人物に対して使用できる。対者待遇に比べていずれの使用対象をマークする際にも用いられやすくなる。その中でも〈親・上〉〈疎・対〉が高い使用率をみせる。(p.123)

(b)(ヤ)アル：〈動物〉以外の範疇の人物をマークするとき用いる。具体的な人物よりも〈個人〉や〈団体〉といった特定性の薄いカテゴリーに対する使用率の方が高い。特定の人物に対しては(ヤ)ハルと同様に〈上〉に用いられる傾向にあり、規範意識とおおむね一致する。特定の人物以外への使用は(ヤ)ハルと同じく〈個人〉、〈団体〉に多く用いられるが、使用率

が逆になっている点から、(ヤ)ハルよりもより具体的な“人”をマークするとき用いられると考えられる。(p.146)

以上より、「(ヤ)アル」は対者・第三者問わず〈ウチ・下〉以外の人物に対して広く使用可能であることが理解できる。また、宮治(1987)がいう第三者待遇偏用が長浜市方言にもあてはまるとし、「(ヤ)アル」に関しても例外ではないという。そして、対者と第三者とで待遇対象は変化しないことから、長浜市の素材待遇形式は「第三者マーカ―としては機能していない」(p.181)とまとめている。第三者マーカ―とは先に示した辻(2009)のいう「三人称指標機能」のことであると思われ、京都方言の「ハル」と湖北地域の「(ヤ)アル」とでは運用方法に違いがあるということを示している。

坪井(2025)は、10代～20代<sup>6</sup>の計173人(10代156人、20代17人)に対して行ったアンケート調査の結果から、考察を行っている。宮治(1987)や酒井(2015b)は昭和世代を対象としていたが、坪井は執筆者と同年代の平成世代を対象にしており、最新の使用状況を明らかにしているといえる。坪井が下した結論は、以下の通りである。

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	●	●	●	●
下	×	×	×	×

上位待遇型

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	×	●	●
下	×	×	●	●

第三者待遇型

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	●	●	●
下	×	×	●	●

上位第三者待遇型

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	●	●	●	●
下	●	●	●	●

全待遇型

図1 (ヤ)アルの待遇型 坪井(2025)

- (10) 長浜市の若年層が主に使用する素材待遇語は(ヤ)アルであり、ハルや(ヤ)ンスは使用者が減少している。
- (11) 長浜市の若年層は、(ヤ)アルを上位第三者待遇型、第三者待遇型、全待遇型と  
いった運用方法で使用している。
- (12) 本稿で見られた(ヤ)アルの運用方法は、目下にも使用できる運用方法が多い点で  
特徴的であり、待遇対象を配慮・尊重する機能を持っている。 (p.193)

<sup>6</sup>10代の回答者に関しては、滋賀県立虎姫高等学校の生徒を対象としている。調査時(2022年)に高校生ということは、2004年以降生まれと考えられる。

<sup>7</sup>酒井(2015b)は、「JR長浜駅から徒歩圏内の長浜の中心地で、商業をおもな生業としている地域」を中心部、「中心部の周辺に位置し、農業をおもな生業としている地域」(p.44)を農村部としている。

最も目を引くのが、「(ヤ)アル」を対者・第三者問わず、身内の年下を含む全ての対象に使用する待遇型(全待遇型)があらわれているという指摘である。執筆者の内省とも、先に示した先行研究とも異なる結果であり、今回の調査において明らかにしたい点の 1 つでもある。

ここまで「(ヤ)アル」に関する研究動向を見てきたが、どれも滋賀県、もしくは長浜市のみを対象としたものばかりで、執筆者の地元である米原市に注目した研究はなされていない。両市は同じ湖北地域に該当するが、商業都市である長浜市と農業都市である米原市とは事情が異なると予想する。酒井(2015b)は、長浜市内での地域差<sup>7</sup>に関して「農村部と中心部の使用割合を比べると(ヤ)アルの使用率は農村部の方が高い」(p.142)と述べており、明確な差がうまれている。そのため、長浜市と米原市の市間での比較も可能であるだろう。

### 3.調査方法

本研究では、多角的な視点から実態を解明するため、主に以下の 4 つの調査を実施する。

第一に、基礎的な使用実態を把握するための予備的調査として、LINE 上の対話における「(ヤ)アル」およびその他の素材待遇形式を確認する。特に家族間での LINE は方言が多用されるインフォーマルな場であり、かつ調査を意識しない無意識的な発話が行われるため、より自然な言語運用の実態を観察できると考える。

第二に、米原市の若年層における「(ヤ)アル」の使用傾向を広範に捉えるための本調査として、Microsoft Forms を用いた大規模なアンケート調査を行う。前述の LINE 調査は日常的な発話を観察できる一方で、回答者数や属性に限りがあるという欠点を持つ。そこで、若年層の生活様式と親和性の高いオンライン形式でのアンケートを実施することにより、回答の心理的負担を軽減しつつ、短期間で有意なサンプル数を確保し、予備調査の欠点を補完する。

第三に、実際の対話場面における運用実態を明らかにするため、談話調査を行う。前述の LINE 調査およびアンケート調査は、広範な言語意識や傾向の抽出には有効であるが、自己申告に基づくため「意識と運用の乖離」が生じる可能性が否定できない。現代の若年層における生きた言語実態を記述するためには、文字媒体の調査のみならず、口頭でのやり取りを対象とした談話調査による補完が不可欠である。

最後に、話者に対して対面での面接調査を実施する。その目的は、先行調査で確認された特徴的な傾向や疑問点について、話者本人への聞き取りを通じてその理由や背景を解明することにある。これにより、実際の言語運用と話者の言語意識を関連付けた、多角的かつ重層的な考察が可能となるだろう。

以上のように性質の異なる複数の調査を組み合わせることで、量的データによる全体的な傾向の把握と、質的データによる個別事象の精密な分析を補完的に行うことができると考える。

#### 4. 「(ヤ)アル」の普及実態と使用意識調査

本章では、二段階のインターネット調査を通じて、米原市若年層の言語意識と実態を解明する。予備調査では、LINE における家族間の対話から方言の無意識的な運用実態を抽出した。この調査は対象を全世代として広く実態を俯瞰したものであるが、サンプル数の制約という課題を併せ持つ。この点を克服し、若年層の使用傾向を広範かつ客観的に捉えるため、本調査として Microsoft Forms を用いた大規模調査を遂行した。

##### 4.1 LINE を用いての調査

「無意識下での自然な使用」をみるために、LINE 上に登場する「(ヤ)アル」、およびその他素材待遇形式を調査した。調査対象は執筆者の家族 4 人(父(50 代)、母(50 代)、弟(10 代)、妹(10 代))(2024 年 11 月時点)と、米原市出身の同級生数名(20 代)である。本調査を通じて得られた結果を以下に整理する。なお、本稿では動作主とその動作に対する待遇の関係を示す際、例えば A が B の行動を待遇の対象とした場合を「A→B」と表記することとする。

- ① 「(ヤ)アル」は頻繁に使用されており、「(ヤ)ハル」を用いている箇所はない。
- ② 第三者待遇において「(ヤ)アル」が待遇する人は、同等の人物(父→母、弟→弟の友人等)、目上の人物(妹→祖父母、弟→先生 等)や他人と幅広く、親疎は問わない。
- ③ 「(ヤ)アル」が待遇するのは人だけではなく、「大学」や「市役所」など無生物や団体にまで及ぶ。
- ④ 執筆者に対して(対者待遇として)「(ヤ)アル」を使用している箇所はない。
- ⑤ 妹(目下)に対して執筆者や弟が「(ヤ)アルを」使用している箇所はない。
- ⑥ 両親が子どもの行動を待遇する際は、すべて「(ヤ)ンス」<sup>8</sup>を用いている。



図2 LINE にあらわれる素材待遇形式 I

<sup>8</sup> 平澤(1986)によれば「(ヤ)ンス」とは、聞き手または話中の人物が話し手と同等以下の場合に、親しみをこめていうときに用いる」(p.398)素材待遇形式のことである。

以上①～⑥は、先述の先行研究の結果とほとんど一致している。図2は「(ヤ)アル」の使用例を視覚化するために掲載している。「父→母」と「弟→先生」は②、「父→大学」は③の例である。

特筆すべき点としては、④の「執筆者に対して(対者待遇として)「(ヤ)アル」を使用している箇所はない。」が挙げられる。これは非常に親しい中でのみの現象なのか、それとも基本的に対者待遇では用いられていないのかについては、分析の余地が残されている。

1.はじめににおいて、「対者で使用することはほとんどない」と記述したが、実際には執筆者自身、学校の先生に対しては使用していた記憶がある。家族内聞き取り調査においても同様の回答が得られたため、「非身内で年上の人物に対しては、対者でも使用できる」という仮説が立てられる。

対者待遇については、宮治老年層(1915年以前生まれ)→酒井(1924～1954年生まれ)→宮治高校生(1967年～1970年生まれ)→坪井(2004年生まれ～)の順で辿ることができ、表2～4より以下のようなことがわかる。

表2 素材待遇語の使用率(滋賀県) 宮治(1987) (2.1表1再掲)

語形 人物	(行か) ハ ル	(行き) ハ ル	ア ル	レ ル	ナ ハ ル	ヤ ス	ル ・ ラ ル	ル ・ ヤ ル	ン ス
老年層									
近所の年上 (上・疎)	172 (69・103)		16 (4・12)	3 (2・1)	18 (16・2)	5 (5・0)	45 (1・44)	5 (0・5)	21 (11・10)
父親 (上・親)	66 (15・51)		10 (2・8)		4 (3・1)	1 (1・0)	61 (1・60)	9 (0・9)	40 (15・25)
近所の年下 (下・疎)	78 (23・55)		8 (1・7)		5 (5・0)	3 (3・0)	38 (0・38)	3 (0・3)	26 (9・17)
孫 (下・親)	1 (0・1)			1 (0・1)			21 (0・21)	1 (0・1)	10 (1・9)
高校生									
近所の年上 (上・疎)	139 (35・104)	1 (0・1)	83 (20・63)	34 (28・6)			6 (0・6)	42 (0・42)	2 (0・2)
父親 (上・親)	43 (0・43)		39 (0・39)				5 (0・5)	46 (0・46)	24 (0・24)
近所の年下 (下・疎)	12 (1・11)		7 (0・7)				1 (0・1)	26 (0・26)	41 (0・41)
第か妹 (下・親)			3 (0・3)					14 (0・14)	24 (0・24)

注：(・)内の数字は待遇ごとの用例数を示す。左が話し相手待遇の場合、右が第三者待遇の場合。

表3 対者待遇の素材待遇形式の使用数 酒井(2015b)

	ウチ・下	親・下	ウチ・対	親・対	ウチ・上	疎・下	親・上	疎・対	疎・上
イラッシャル [☆]								1	2
ラレマス [♪]						1	4	2	7
ゴザル [★]							1	1	1
ハリマス [□]					1	1	5	4	5
ヤアリマス [○]					1	5	11	10	14
マス [#]						1	2	5	4
ヤハル [■]		2	2	2	1	3	5	4	2
ヤアル [●]		1	4	5	2	7	15	11	9
ヤンス [▲]	3	2	1	3	3	3	2	2	2
φ [-]	21	21	21	21	21	15	3	3	

表4 長浜市の若年層の(ヤ)アルの各待遇型<sup>9</sup>の回答者数 坪井(2025)

待遇型類	上位待遇型類		上位第三者待遇型類		第三者待遇型類		全待遇型類		その他	不使用	総数
	上位	準上位	上位第三者	準上位第三者	第三者	準第三者	全	準全			
回答者数	1 (0)	3 (2)	42 (20)	11 (6)	21 (7)	3 (1)	43 (13)	30 (7)	18	1	173
	4		53		24		73				

※ ( ) 内は「言う」のみで回答された回答数で内数

- ①1954年以前に生まれた人は、待遇対象が年上のときに顕著に見られる(尊敬語的用法が主である)ものの、「(ヤ)アル」を幅広い対者への待遇で使用していた。ただし、身内の年下には使用しない。
- ②1967年以降に生まれた人は、幅広い対者に対して使用することが激減したものの、「疎」にあたる年上の人物に対しては「(ヤ)アル」を用いていた。
- ③2004年以降に生まれた人は、身内・非身内や上・下を問わず対者に「(ヤ)アル」を使用するようになってきている。

つまり「(ヤ)アル」は、身内の年下以外には対者で使用されてきたが、一度その適用範囲が非身内の年上に限定され、そして現在はすべての対者に使用されるように適用範囲が広がった、ということになる。

①と②の違いに関しては宮治(1987)が、「高校生が話し相手に対してあまり素材待遇形語を用いないことと関連」しており、「高校生が地域社会外での社会生活をまだほとんど経験していない年代であること」(p.43)が理由であると述べている。

②から③への変化は、坪井(2024a)が「関係者待遇」という機能を用いて説明している。「関係者待遇」機能とは、「発話者と関わりがあったり、物理的に空間を共有したりする人を自分に関係がある人としてプラス(配慮的)に待遇する機能」(p.42)のことで、「辻(2009)の「第三者指標機能」よりも話し手が待遇対象と関係を持つことを示す機能に重点が置かれたもの」(p.42)である。そして坪井(2024a)は、「「関係者待遇」として運用されるのであれば、対者待遇場面であっても目上/目下関係なく待遇できるようになる」(p.42)と主張している。つまりこの「関係者待遇」機能の登場が、③という新たな使用法の誕生に影響を与えたということである。

<sup>9</sup>各待遇型は、坪井(2025)が独自に設定したものである。上位待遇型、第三者待遇型、上位第三者待遇型、そして全待遇型については図1を参照されたい。

準上位待遇型は、対者待遇場面/第三者待遇場面問わず、目上に対して1つ以上●があるものうち上位待遇型以外のもの。準第三者待遇型は、対者待遇場面が全て×、かつ第三者待遇場面に1つ以上●があるものうち、第三者待遇型以外のもの。準上位第三者待遇型は、準第三者待遇型の基準に加えて非身内の目上に●があるものである。準全待遇型は、×が1つのものか、×が2つで対者待遇場面と第三者待遇場面で×になる待遇対象が一致しているものである。

しかし、三者の調査フィールドや条件が異なる点は注意しておかねばならない。酒井(2015b)と坪井(2025)は長浜市に限定しているものの、宮治は滋賀県全体で調査を行っている。また、調査対象が高校生か高齢層かという違いもある。これらが調査結果に影響を与えている可能性は十分にあり、先述の変遷は参考程度にとどめたい。

また、LINE 上での「(ヤ)アル」を概観した結果、「くれる」という動詞・補助動詞のあとには「(ヤ)アル」が続きやすい。」という傾向が見られた。

「くれる」は『日本国語大辞典』に、「人に物を与える。」という他動詞の意味と、「補助動詞として用いる。」という補助動詞の意味が掲載されている。「受け手の身分や地位が与え手より低い場合、または、話者が受け手を軽蔑している場合に用いることが多い。」や「話者または話者側の者に及んだ他者の行為の下に付けて、その行為が非好意的になされたり、こちらに不利益や損害をもたらしたりするものであることを表わす。」というマイナスな意味もあるが、LINE 上では「弟→先生」の例のように、使用場面のすべてが好意的な意味で捉えられるものであった。そこで、「くれる」は他者が自分に対して何か好意的なことを行った際に使用する動詞・補助動詞であり、敬意の含まれた言葉であるため、「(ヤ)アル」が続きやすい、という仮説が立てられる。

以上はあくまで執筆者の家族や友人など非常に身近なコミュニティ内での話であることに加え、どれも執筆者に対する連絡からの考察であり、データに偏りがあることが予想される。そこで、これらを契機に調査範囲を拡大する。

#### 4.2. Microsoft Forms を用いての調査

幅広いデータを得るため、Microsoft Forms を用いて「(ヤ)アル」の使用に関するアンケート調査を行った。本研究では年代別比較を行うのではなく、現在の使用状況について明らかにすることを目的としているため、調査対象は若年層に絞った。また、大学生以上の年代となると他府県の大学や就職先に通う人も多く、地元の方言感覚が抜けてしまっていたり、様々な方言が混ざってしまっていたりと純粋な回答を得られないと判断したため、小・中学生時代を米原市で過ごした、もしくは過ごしている現役中高生を対象とすることにした。なお、高校は米原市以外に通学していてもよいこととしている。

図3で模様がついている場所が、湖北地域である。先行研究の多く存在する長浜市は縦ストライプで示しており、人口111,156人(2026年1月1日現在)と滋賀県内3位(19の市町村のうち)になっている。

一方今回フィールドとしている米原市は横ストライプで示している。人口36,531人(2026年1月1日現在)と滋賀県内13位(市の中では最下位)である。

両市に共通している点は他県と接触しているということであり、長浜市は福井県と岐阜県、米原市は岐阜県と隣接している。

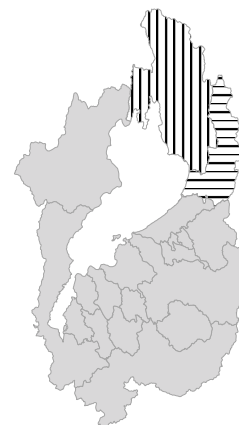


図3 湖北地域の位置

アンケートの項目は以下の通りである。

1.あなたの出身地域を教えてください。

2.あなたの性別を教えてください。 選択肢：「男性」「女性」「その他」

3.あなたの年齢を教えてください。

4.「先生が【イカハル(行かはる)】」という表現について以下の選択肢から最も自分の考えに近いものを選んでください。」

5～9は、【 】内をそれぞれ「イキハル」、「イカール」、「イカル」、「イカンス」、「イキヤル」としている。

4～9の選択肢：「よく言う」「たまに言う」「言わないが聞いたことがある」  
「言わないし聞いたことがない」

10.あなたは【 】内の人物と話しています。【 】内の人物本人に「買い物に行く？」とたずねる時、「イカール(行かーる/行かある)」と言いますか。【父/母】

11～15は、【 】内をそれぞれ「弟/妹」、「先生」、「友達」、「後輩」、「近所の年下」としている。

10～15の選択肢：「言う」「言わないがおかしくない」「言わないしおかしい」

16.10～15で1つでも「言う」、「言わないがおかしくない」と回答した人に質問します。(すべて「言わないしおかしい」を選択された方は空欄でかまいません。)どのような意図で「(ヤ)アル」を使用していますか。

17.あなたは友達のAさんと【 】内の人物について話しています。【【 】内の人物はよく買い物に行く」と言う時、「イカール(行かーる/行かある)」と言いますか。【父/母】

18～22は、【 】内をそれぞれ「弟/妹」、「先生」、「友達」、「後輩」、「近所の年下」としている。

17～22の選択肢：「言う」「言わないがおかしくない」「言わないしおかしい」

23.17～22で1つでも「言う」、「言わないがおかしくない」と回答した人に質問します。

(すべて「言わないしおかしい」を選択された方は空欄でかまいません。)どのような意図で「(ヤ)アル」を使用していますか。(例)相手に敬意を払っている。

24.あなたは友達の Aさんと一緒に、友達 Bさんについて話をしています。次の4つの文章のうち、1つにしか「(ヤ)アル」が使えないとしたら、どれに使用しますか。

選択肢：「友達 B が図書館にいた」「友達 B が本をくれた」  
「友達 B が学校に行った」「友達 B がドアを開けてくれた」

25.次の4つの文章のうち、1つにしか「(ヤ)アル」が使えないとしたら、どれに使用しますか。

選択肢：「母が旅行に行く」「近所の子どもが旅行に行く」  
「先輩が旅行に行く」「先生が旅行に行く」

26.あなたは友達の Aさんと一緒に話をしています。次の4つの文章を、「(ヤ)アル」がつきやすい順番に並び変えてください。

選択肢：「近所の子どもがお菓子をくれた」「先生が職員室にいる」  
「先輩がドアを開けてくれた」「母が仕事に行く」

アンケートは全 26 問である。4～9 は米原市で使用されている素材待遇形式を、10～15 は対者待遇を、17～22 は第三者待遇を調査するために用意した。後に長浜市との比較と考察を行うために、坪井(2025)が行ったものとアンケート項目は一致させている。

一方で、今回の調査で新たに付け加えた設問もいくつか存在している。

1つは、対者と第三者の待遇を調べる際に、坪井は非身内の目下として「後輩」を挙げていたが、本調査では「近所の年下」という項目(15、22)を追加している。「後輩」は年齢的に近く、「友達」の感覚で回答する人が出る可能性を考え、より年下の人物を設定した。

また、対者待遇、第三者待遇の質問項目のあとに、それぞれ「(ヤ)アル」の使用の意図を聞く設問(16、23)を用意している。これは、インフォーマントの思いを知ることによって、「(ヤ)アル」に含まれている意味を詳しく知ることができると考えたからである。

24～26 は、LINE 上で見られた傾向が、当該地域における普遍的な言語実態として定着しているかを確認するために設けている。24 は、どの動詞に続きやすいのかを明らかにするため、待遇対象を固定し、後接する動詞を変化させている。25 は、動詞を統一し、待遇対象を変えることで、どの人物が最も「(ヤ)アル」で待遇されやすいのかを調査している。26 は、待遇対象と動詞の両方を変えることで、どの要因が最も「(ヤ)アル」使用に影響を与えているのかを明らかにしたいという意図のもと、設定している。

### 4.3 Microsoft Forms 調査の結果

調査は、2024年11月14日から2024年11月21日にかけての1週間行った。回答者は13歳から18歳までの男女96人(男:38人、女:58人)である。

#### 4.3.1 素材待遇形式の使用実態

米原市の若年層が使用する素材待遇形式についての調査結果が、図4である。また、比較のために坪井(2025)が示す長浜市での調査結果を図5として掲載している。

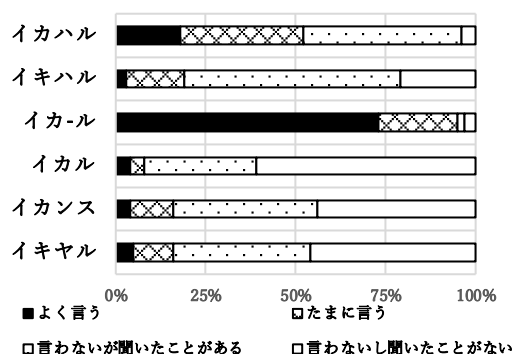


図4 米原市若年層の素材待遇形式の使用意識

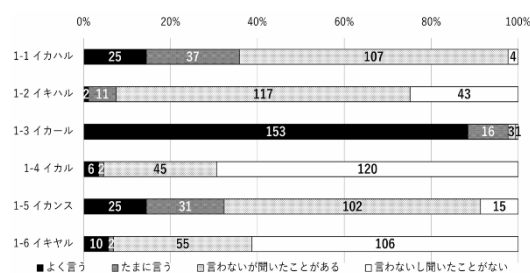


図5 長浜市若年層の素材待遇形式の使用意識  
坪井(2025)

図4と図5より、米原市と長浜市では「イカ-ル」、つまり「(ヤ)アル」の使用率が圧倒的に高く、その他の素材待遇形式に関しても両市で大体似通った割合で使用されていることがわかる。また、「イカ-ル」に対して「言わないし聞いたことがない」と答えた3人は、この項目に限らずすべての問題に対して「言わないし聞いたことがない」や「言わないしおかしい」と回答しており、そもそも方言を全く使用しない人物、もしくはあまり考えずに回答した人物であると思われる。

両市で異なる点は、「イカンス」、つまり「(ヤ)ンス」の知名度と使用率である。長浜市では「(ヤ)ンス」を「言わないし聞いたことがない」と答えた人は15人と9%程度であるが、米原市では42人と44%であり、その知名度と使用率に差があることがうかがえる。「(ヤ)ンス」は親愛の助動詞であり、平澤(1986)によれば「聞き手または話中の人物が話し手と同等以下の場合に、親しみをこめていうときに用いる」(p.398)素材待遇形式である。使用例としては図6<sup>10</sup>を参照されたい。

長浜市とこれほど差が出る要因として、「長浜市で「(ヤ)ンス」を使用する場面において、米原市では「(ヤ)アル」が使用されている」という仮説が立てられる。坪井(2025)は「(ヤ)アル」と「(ヤ)ンス」の関係について以下のように述べている。

長浜市の若年層は(ヤ)ンスをあまり使わず、下向き待遇の運用方法を維持していない

人が多くを占めている状況にある。その一方で、(ヤ)アルは使用者が多く、目下まで待遇できる待遇型類が多く見られることから、これまで目下を待遇するのに使用されてきた(ヤ)ンスに代わって(ヤ)アルが目下まで待遇できるようになったと言える。

(p.194)

以上より、長浜市においても以前と比較すると「(ヤ)ンス」の使用が減少しており、その理由が「(ヤ)アル」の待遇範囲の拡大にあると理解できる。一方で、次のようにも述べている。

(ヤ)アルは(ヤ)ンスに代わって目下も待遇できるようにはなったものの、(ヤ)ンスの持っていた親愛語用法を獲得したわけではないと考えられる。つまり、上位待遇型で運用されていたときの尊敬語としての機能の延長にある、待遇対象を配慮・尊重する機能として目下の人物を待遇しているのである。

(p.193)

坪井(2025)は「(ヤ)アル」の親愛語用法の獲得を否定しているが、執筆者は「(ヤ)アル」に親愛語的意味合いが含まれていると考える。今日の若年層の間で「(ヤ)ンス」の使用が減り、そしてその代わりとして「(ヤ)アル」が使われているとすると、単純に考えれば「(ヤ)アル」に「(ヤ)ンス」の意味合いが統合されているといえるからである。そもそも親愛語とは、岸江(1998)によると「素材に対して、かわいいと思う気持ち、親しみを表す形式」(pp.32-33)であり、湖北方言である「(ヤ)ンス」や京都方言の「(ヤ)ハル」がその性質をもつとされている。少なくとも米原市においては、「(ヤ)アル」が親愛語としての機能を強めており、その結果として「(ヤ)ンス」の認知度や使用率が、隣接する長浜市と比較して低迷しているという可能性が推察される。この点については、次章以降の談話調査および面接調査を通じて、地域差が生じる要因とその実態をより詳細に究明したい。

また酒井(2015b)は、「(ヤ)ンスは農村部でおもに使用される素材待遇形式である」(p.117)と述べているが、本調査結果と関係があるのだろうか。本調査において、「イカンス」を「よく言う」、「たまに言う」と答えた13人(地域が明確にわかる人のみ)の出身地域を、図7に示している。また、酒井がいう中心部と農村部の位置を、同図内にも記載している。

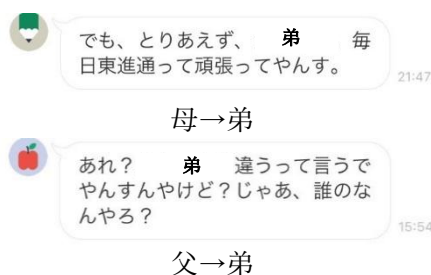


図6 LINE にあられる素材待遇形式II



図7 「(ヤ)ンス」使用者の出身地域

図7より、米原市では「(ヤ)ンス」が使用される地域は限られており、比較的市北東部に集中していることがわかる。長浜市の中心部より農村部に近い地域と言え、地理的連続性が関係しているのかもしれない。

筧(1962;1982)により、滋賀県湖北地域には多くの素材待遇形式があることが明らかになったが、現在では「(ヤ)アル」一強であり、もはや複数存在しているとはいえなくなっている。湖北地域である長浜市と米原市で各素材待遇形式の使用の割合はほとんど同じであるが、「(ヤ)ンス」については長浜市により根強く残っているのである。

#### 4.3.2 対者待遇

米原市の若年層の間において、素材待遇形式が話し相手に対してどれほど使用されているのかを示したものが、図8である。参考として、宮治(1987)の調査結果も掲載している。これ以降、「ウチ」は身内、「ソト」は非身内を、「上」や「下」は上下関係を指す。また「対」とは、年齢や立場が対等な人物のことである。

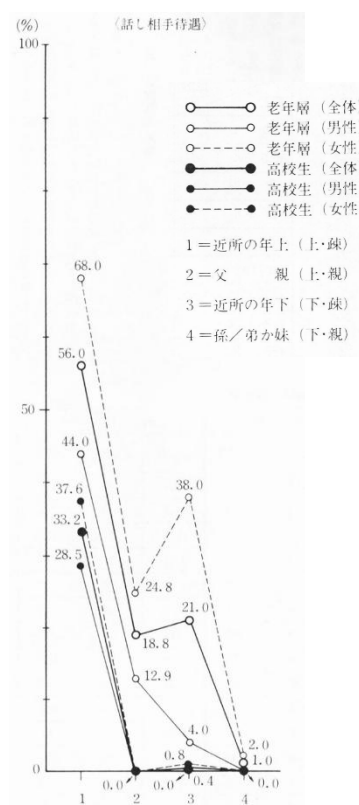
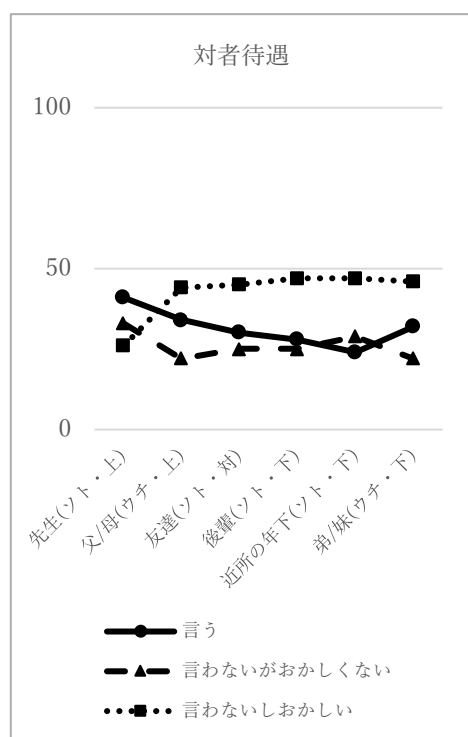


図8 対者に対する素材待遇語の使用率(米原市)

図9 素材待遇語の使用率(滋賀県) 宮治(1987)

<sup>10</sup> 「言うでやんす」は「言うてやんす」の誤字であると思われる。

以上より、「先生」が若干高い数値を示しているが、話し相手待遇のときはどの待遇対象に対してもある程度一定の使用率であることが理解できる。使用率は高い順に「先生」(41%) > 「父/母」(34%) > 「弟/妹」(32%) > 「友達」(30%) > 「後輩」(28%) > 「近所の年下」(24%)である。

4.1LINE を用いての調査において、「執筆者に対して(対者待遇として)「(ヤ)アル」を使用している箇所はない。」としていたように、執筆者の内省としては話し相手に「(ヤ)アル」を使用することは基本的にはない。しかし、図8より約50%の人が対者への使用を違和感なく受け入れていることがわかる。質問内容を誤解して回答した人が多いのではないかと考え、回答者数人に直接質問してみたところ、全員から「対者では使用しない」という回答が得られた。回答者がまだ中高生であるためしっかり質問内容を把握しておらず、このような結果になったともいえるが、後に示す第三者待遇のグラフとは大きく異なることから、本調査結果を無視することはできない。特に、「先生」(ソト・上)への使用率が最も高くなっている点は図9と一致しており、対者における「ソト・上」への待遇は、失われていないことが理解できる。その他の待遇対象については、ウェブアンケートではなく、こちらの質問の意図がより伝わりやすい形式で再度調査する必要がある。

### 4.3.3 第三者待遇

米原市の若年層の間において、素材待遇形式が第三者に対してどれほど使用されているのかを示したものが、図10である。参考として、宮治(1987)の調査結果も掲載している。

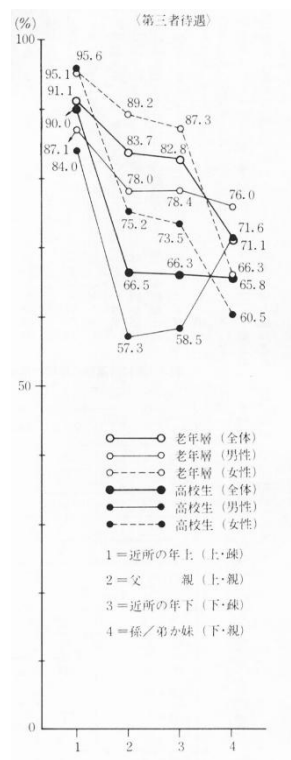
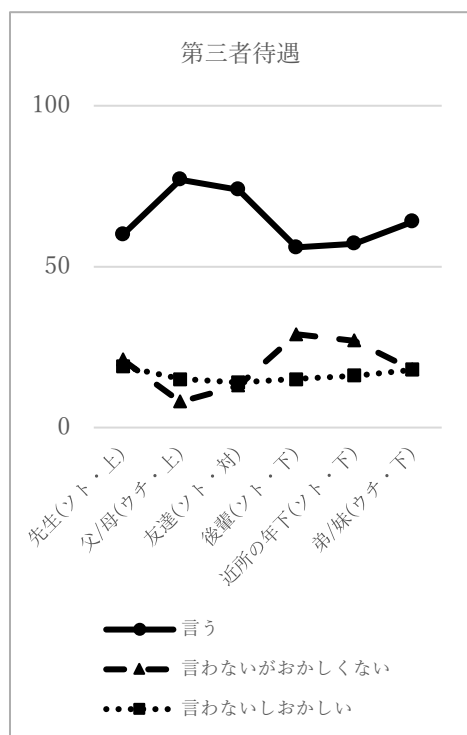


図10 第三者に対する素材待遇語の使用率(米原市) 図11 素材待遇語の使用率(滋賀県) 宮治(1987)

以上より、第三者待遇の場合はその使用を違和感なく受け入れている人が非常に多いことがうかがえる。使用率は高い順に「父/母」(77%) > 「友達」(74%) > 「弟/妹」(64%) > 「先生」(60%) > 「近所の年下」(57%) > 「後輩」(56%)となる。対者待遇の結果と比較すると使用率は全体的に大きく上回っており、宮治(1987)の指摘する「第三者待遇偏用」は健在であるといえる。

ここで、どのような意図をもって使用しているのかを探るべく、アンケート項目 23 の結果に注目すると、全 66 件の回答のうち「自然と使っている」や「特に意識せず使っている」といったものが約半数を占めており、「(ヤ)アル」が敬語表現ではなく、単なる方言として浸透していることがわかった。一方で、「丁寧さを気軽に表現できる」や「相手に敬意を払っている」といった回答も 10 件程度みられ、無標形式よりも「(ヤ)アル」が語尾に接続した方が、より丁寧な表現であるという意識があるようである。また、「親しい人と思っっている人に使っている」や「ラフに聞こうとする意図」といった「親しみや日常会話」という意識で使用するという回答も多くあり、これは「父/母」と「友達」が待遇されやすいことと関係していると思われる。よって、第三者における「(ヤ)アル」の使用は、「敬意や丁寧さ」、「癖や無意識」、「親しみや日常会話」という大きく 3 つの使用意識にわけられ、今日の「(ヤ)アル」は、敬語的意味から親愛語的意味まで幅広い意味を包含している、万能な素材待遇形式になっていると考えられる。「(ヤ)アル」の親愛語化については、先述の通り坪井(2025)は否定している。しかし上記アンケート結果を鑑みると、「(ヤ)アル」が親愛語用法を獲得したと指摘してもよいのではないだろうか。

#### 4.3.4 対者待遇と第三者待遇での使用意図の違い I

先述の通り、対者待遇における「(ヤ)アル」の使用率については疑問が残る結果となったが、対者待遇での使用意図(アンケート項目 16)に注目すると、面白い回答がみられた。対者待遇での使用と第三者待遇での使用とで、「(ヤ)アル」が意味するところが異なるのである。少なくとも対者と第三者で異なる回答をした人はこちらの質問意図を理解していると考えられ、信頼できるデータである。以下に、該当の回答を抜粋して示している。

表 5 対者・第三者待遇での「(ヤ)アル」の使用意識の違い I

	回答者	対者	第三者
使用意図	13 歳女性 (米原市伊吹)	相手に敬意を払っている	丁寧語に近い?
	13 歳女性 (米原市野一色)	相手に敬意を払っている	自然になってしまう
	14 歳女性 (米原市伊吹)	敬語として使っている	敬語という意識はない、人に伝える時には自然と使っている
	15 歳女性	敬語の場合に使う	相手に敬意を払っているが、堅すぎない

(米原市宇賀野)		い表現。
15歳女性 (米原市杉澤)	敬語に近い	あまり考えていない
16歳女性 (米原市伊吹)	目上の人に経緯を払っている。堅苦しくもなく生意気でもない。友達には使わない。	目上じゃなくても使う。丁寧になるので使っている。
16歳女性 (米原市米原)	相手に敬意を払っている。「行かかりますか」を崩している感じで使う。	特に意図はない。ただ方言だとだけ思っている。
18歳女性 (米原市宇賀野)	敬意を含める。	第三者の行動について言及する。

表 5 より、話し相手に対しては敬意を払って用いるが、第三者の行動について話すときにはその待遇価(敬意の度合い)が低くなっているということが理解できる。つまり、「(ヤ)アル」は対者待遇では敬語であるが、第三者待遇では「敬意や丁寧さ」、「癖や無意識」、「親しみや日常会話」として使用されるのである。対者の「先生」に対する使用率が高かった理由は、ここから説明可能である。これは一般的な使用法とはいえないが、執筆者の内省とも一致しており、このような使い分けが存在していることは事実である。本調査結果は酒井(2015b)の、「対者待遇と第三者待遇で待遇価の違いはなく」(p.178)、という結論と相対しており、さらなる調査が必要である。

また、上記のような回答をした人が**全て女性**ということも気になる点である。使用の性差に関しては、宮治(1987)と酒井(2015b)が以下のように指摘している。

男女差との関連については、老年層の場合も高校生の場合も、女性の方が素材待遇語を多く用いる傾向にあるということが指摘できる。(p.43)

男女ともに主に(ヤ)アルを用いているが、男性はヨル、(ヤ)ンスを特定の対象に対して使用しているのを除くと、そのほとんどは(ヤ)アルになる。一方、女性は、同じように(ヤ)アルを主に使用するが、(ヤ)アルと使い分けている(ヤ)ハル、(ヤ)ンス、 $\phi$  の使用数をみると、これらの素材待遇形式を頻繁に使い分けていると言える。

(p.144)

両者に共通しているのは、「女性の方が素材待遇形式を多く用いる」という点であり、一見今回の結果とは関係の無いように思える。しかし、若年層が使用する素材待遇形式が「(ヤ)アル」に統一されてきている今、複数の語を使い分けるのではなく、「(ヤ)アル」一語を時と場合によって使い分けるようになっていると推測できる。

#### 4.3.5 「(ヤ)アル」の優先度について

アンケート項目 24 は、「(ヤ)アル」がどの動詞につながりやすいのかを聞く質問である。以下に質問内容と、その結果を示している。

##### 質問

あなたは友達 A さんと一緒に、友達 B さんについて話をしています。  
次の 4 つの文章のうち、1 つにしか「(ヤ)アル」が使えないとしたら、どれに使用しますか。

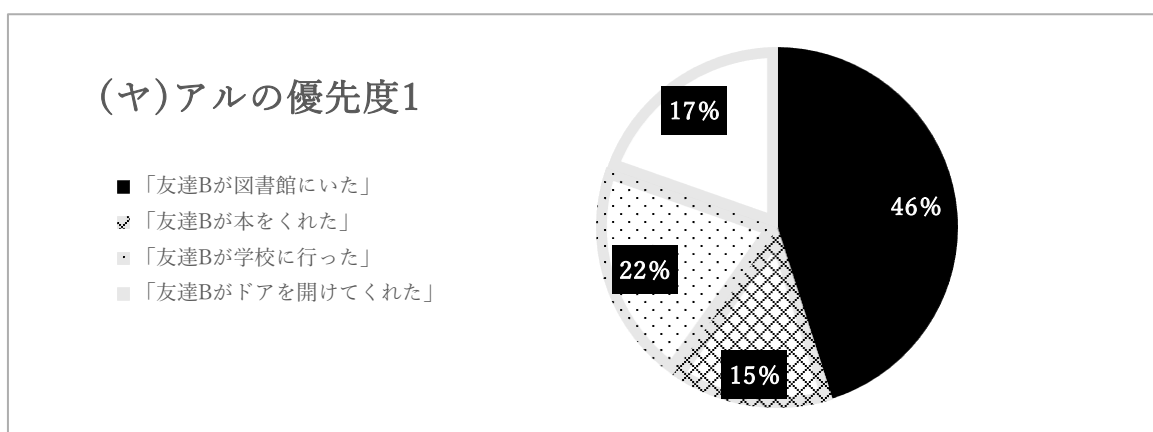


図 12 「(ヤ)アル」がどの動詞につながりやすいのか

図 12 より、約半数が「友達 B が図書館にいた」に接続しやすい、つまり「友達 B が図書館にやーる(ヤアル/ヤール)」になりやすいと回答している。選択肢の一番上にあるということ、「やーる」というそのままの形であることから、選択しやすかったとも考えられるが、執筆者の内省としても最も頻繁に用いる状況である。これらを踏まえると、他の動詞に続くよりも、存在を表す「やーる」として用いるほうが多いと考えられる。

4.1LINE を用いての調査において、「「くれる」という動詞・補助動詞のあとには「(ヤ)アル」が続きやすい。」という仮説を立てたが、特別割合が高いということもなかった。「(ヤ)アル」の接続の優先度としては恩恵表現を存在表現が上回っているということが、本結果からわかった。

アンケート項目 25 は、どの人物が最も「(ヤ)アル」で待遇されやすいのかを聞く質問である。以下に質問内容と、その結果を示している。

## 質問

次の4つの文章のうち、1つにしか「(ヤ)アル」が使えないとしたら、どれに使用しますか。

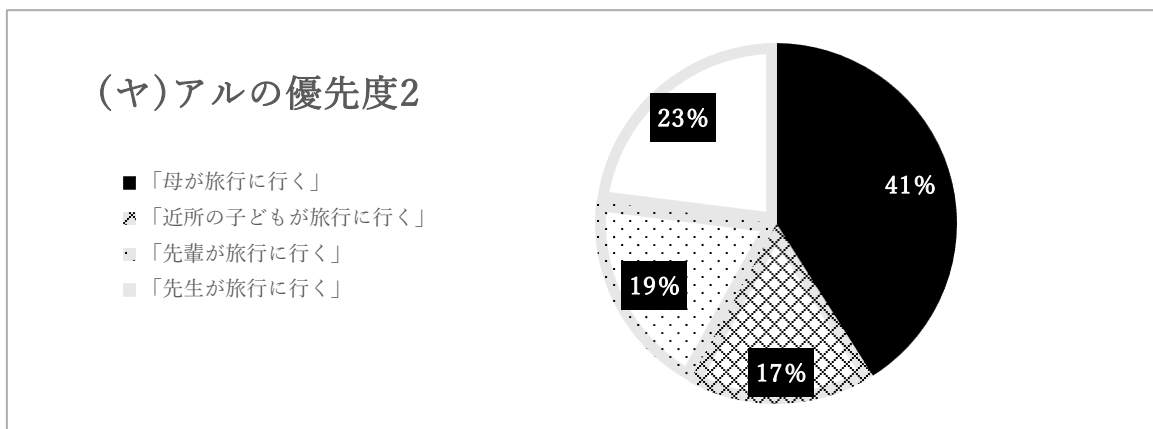


図13 「(ヤ)アル」がどの対象に用いられやすいのか

図13より、「母」>「先生」>「先輩」>「近所のこども」という優先度順であることがうかがえる。「母」が特に割合として高いことを除けば他三者でそれほど違いはなく、「身内に優先して用いる」という、身内敬語的な運用があると考えられる。このことは図8と図10で身内にあたる「父/母」や「弟/妹」の使用率が高いことから説明可能である。ただしこれも選択肢の一番上にあるという点は忘れてはならない。

アンケート項目26では、主語も動詞も異なる4つの選択肢を用意した。以下に質問内容と、その結果を示している。

## 質問

あなたは友達のAさんと一緒に話をしています。

次の4つの文章を、「(ヤ)アル」が付きやすい順番に並び変えてください。

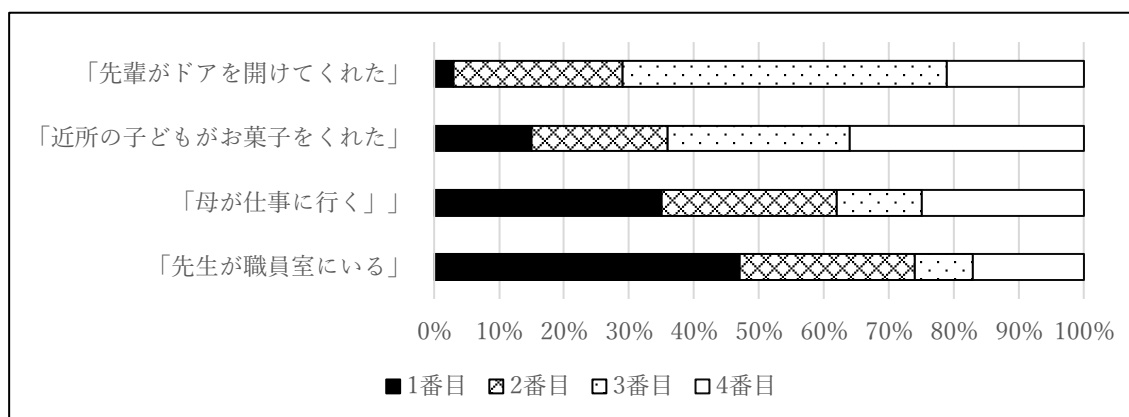


図14 「(ヤ)アル」がどの動詞・対象に用いられやすいのか

図 14 より、「先生が職員室にいる」が最も優先されやすいことがわかる。動詞「いる」、「行く」と人物「母」、「先生」は待遇されやすいことが図 12、13 から既に判明しており、納得できる結果である。今回は「母」や「先生」などの目上に「いる」や「行く」を使用した例を用いたため、動作か人物、どちらが「(ヤ)アル」の接続に影響を与えやすいのかを明らかにすることができなかった。

#### 4.4 LINE・Microsoft Forms 調査のまとめ

4.1 LINE を用いての調査と 4.3 Microsoft Forms 調査の結果より、以下のことがわかった。

- ①米原市の若年層の間で使用されている素材待遇形式は基本的に「(ヤ)アル」であり、その傾向は長浜市と変わらないが、「(ヤ)ンス」については長浜市より使用が少ない。
- ②「(ヤ)アル」は親愛語化している可能性がある。
- ③対者待遇において最も待遇されやすいのは「先生」であり、その他は同程度の使用率である。しかし、回答の正確性には疑問が残る。
- ④「(ヤ)アル」は第三者での使用が対者と比較して多く、「第三者待遇偏用」の傾向がある。
- ⑤「(ヤ)アル」は、「敬意や丁寧さ」、「癖や無意識」、「親しみや日常会話」という3つの意図から使用されており、幅広い意味を包含している。
- ⑥対者待遇と第三者待遇で待遇価が異なる可能性がある。
- ⑦「(ヤ)アル」の使用には男女差がある可能性がある。
- ⑧「(ヤ)アル」の接続する優先度としては、動作は「いる」、人物は「父/母」が高い。

今回のアンケート調査と坪井(2025)の調査結果をまとめると、「湖北で使用される素材待遇形式は「(ヤ)アル」に偏っている」という特徴が見出せる。また、同じ湖北地域ではあるが、「(ヤ)ンス」の使用度や知名度に差があるなど、まったく同じ傾向を有しているとは言えないことも判明した。

## 5. 談話調査

自然談話内に現れる「(ヤ)アル」の実態を調査するため、談話調査を行った。2～3名ほどで約30分～1時間30分程度自由に会話をしてもらい、録音した音声を文字化し分析した。インフォーマント情報は表6、談話情報は表7に示している。本研究では、話者を識別するために「出身地頭文字+生年の下二桁+性別+通し番号」の形式でインフォーマントに番号を付与した。

表6 インフォーマント情報

インフォーマント ID	性別	年齢	生年	出身地
I08F01	女	17	2008	米原市伊吹
N09F02	女	16	2009	米原市中多良
M08F03	女	17	2008	米原市箕浦
I10F04	女	15	2010	米原市伊吹
Y08F05	女	17	2008	米原市弥高
S09F06	女	16	2009	米原市春照
S08M07	男	17	2008	米原市醒ヶ井
K09M08	男	16	2009	米原市上丹生
N08M09	男	17	2008	米原市長岡
S08F10	女	17	2008	米原市春照
M08M11	男	17	2008	米原市村木
S09F12	女	16	2009	米原市杉澤

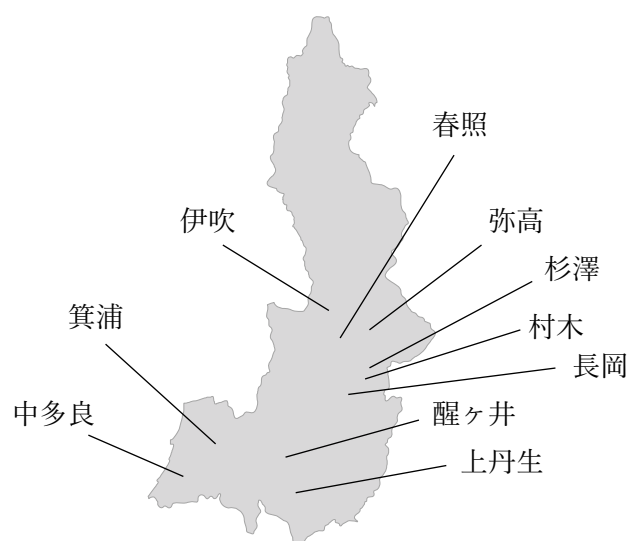


図15 インフォーマントの出身地

表7 談話情報

談話 ID	収録時間	談話参加者	関係	収録年月日
DAN1	1:32:50	I08F01 N09F02 M08F03	友人(同級生)	2025.11.9
DAN2	1:08:27	I08F01 I10F04	友人(先輩後輩)	2025.11.10
DAN3	55:01	I08F01 Y08F05 S09F06	友人(同級生)	2025.11.16
DAN4	41:27	S08M07 K09M08	友人(同級生)	2025.12.11
DAN5	37:12	S08M07 N08M09	友人(同級生)	2025.12.19
DAN6	40:16	S08F10 M08M11 S09F12	友人(同級生)	2026.1.09

I08F01 は執筆者の妹であり、録音の協力者であるため複数の談話に登場するが、DAN2 以外については最小限の発言にとどめてもらっている。

### 5.1 表記について

「(ヤ)アル」使用箇所は、「してやる」のようにひらがなかつ長音符を用いて表記している。談話の内容は最小限の情報で示し、インフォーマントの笑い声やはっきりと聞こえない内容は表記せず、沈黙や非言語的行動についても考慮していない。句読点に関しても省略している。一方で、内容を理解するうえで重要だと判断した箇所については、言葉遣いや表現を( )で補っている。また、個人名や個人が特定され得る情報に関しては、「Aさん」、「B病院」のように加工・抽象化している。

一方で、酒井(2015b)の表記方法を採用している部分もある。

それぞれの発話は、会話参加者のターンごとに改行し、あいづちなど他者の発話が重なる箇所についても改行する。ただし、あいづちで改行する際は、談話資料の読みやすさを考慮し、必ずしも厳密にあいづちを行っているところでは改行せず、元の発話者による発話の文節ごとのまとまりの後に改行する。(p.50)

また酒井(2015b)同様、発話は文節ごとに分かち書きをし、文節と文節の間は全角1字分

の空白で示している。

## 5.2 調査結果

全部で6つの談話を録音した。談話内で登場するすべての「(ヤ)アル」は第三者に対するものであり、話し相手に対して使用している用例は1つもなかった。そこで本調査では、話者が第三者の行動について話をしている箇所のみを分析対象とする。各談話の「(ヤ)アル」の登場回数と、第三者の行動に言及しつつも「(ヤ)アル」が使用されていない箇所についてまとめたものが表8である。使用率は、少数第2位以下を切り捨てている。

表8 各談話内にみられる「(ヤ)アル」の回数とその割合

談話ID	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
DAN1	65	106	0	171	38
DAN2	40	128	3	171	23.3
DAN3	69	136	1	206	33.4
DAN4	10	152	12	174	5.7
DAN5	4	63	7	74	5.4
DAN6	19	71	2	92	20.6

### 5.2.1 待遇対象について

各談話内で待遇されていた人物と「(ヤ)アル」の使用率をまとめたものが表9～14である。待遇対象は話者からみた関係値であらわしている。わかりにくい対象についての詳細は後述する。使用率は、少数第2位以下を切り捨てている。

#### 他校の生徒

単に所属校が異なる生徒を指すのではなく、友人の知人や大会・発表会等で見かけたことがある程度の、直接的な面識や交流がほとんどない同級生を指す。

#### 執筆者(友姉)

関係性は友人の姉という形になるため「執筆者(友姉)」と記載している。

#### 不明

談話からは特定できなかった待遇対象のことを指している。

#### 一般人

一般論として述べられている事象の主語は、「一般人」としている。

表9 DAN1内で待遇されていた人物とその割合

待遇対象	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
先生	30	24	0	54	55.5
アイドル	10	35	0	45	22.2
同級生	9	13	0	22	40
姉	4	14	0	18	22.2
妹	2	0	0	2	100
クリエイター	2	2	0	4	50
他校の生徒	2	6	0	8	25
姉の友人	1	1	0	2	50
小学校	1	0	0	1	100
先輩	1	2	0	3	33.3
執筆者(友姉)	1	1	0	2	50
不明	1	1	0	2	50
友人の妹	1	0	0	1	100
学芸員	0	1	0	1	0
歌手	0	1	0	1	0
キャラクター	0	2	0	2	0
一般人	0	1	0	1	0
母	0	1	0	1	0

表10 DAN2内で待遇されていた人物とその割合

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
同級生	21	49	2	72	29.1
先生	11	15	0	27	40
一般人	2	6	0	8	25
母	2	5	0	7	28.5
キャラクター	1	17	0	18	5
他校の生徒	1	0	0	1	100
友人の兄	1	0	1	2	50
友人の親	1	0	0	1	100
歴史上の人物	0	15	0	15	0
兄	0	3	0	3	0

クリエイター	0	2	0	2	0
知り合い	0	2	0	2	0
声優	0	1	0	1	0
父	0	2	0	2	0
年上の男性	0	3	0	3	0
猫	0	4	0	4	0
友人の父	0	2	0	2	0

表 11 DAN3 内で待遇されていた人物とその割合

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
同級生	49	87	0	136	36
姉	4	0	0	4	100
先生	4	7	0	11	36.3
他校の生徒	4	21	0	25	16
執筆者(友姉)	3	4	0	7	42.8
アーティスト	1	2	0	3	33.3
いとこ(年上)	1	0	0	1	100
看護師	1	0	0	1	100
キャラクター	1	6	0	7	14.2
両親	1	1	0	2	50
一般人	0	1	0	1	0
警察	0	1	0	1	0
鹿	0	0	1	1	0
後輩	0	3	0	3	0
猫	0	3	0	3	0

表 12 DAN4 内で待遇されていた人物とその割合

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
先生	6	141	12	159	3.7
youtuber	2	0	0	2	100
同級生	1	6	0	7	14.2
一般人	1	5	0	6	16.6

表 13 DAN5 内で待遇されていた人物とその割合

	(ヤ)アルあり(回)	(ヤ)アルなし(回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
同級生	4	58	7	69	5.7

表 14 DAN6 内で待遇されていた人物とその割合

待遇対象	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
先生	5	0	0	5	100
父	3	0	0	3	100
除雪車	2	0	0	2	100
祖母	2	1	0	3	66.6
弟	1	1	0	2	50
会社	1	0	0	1	100
キャラクター	1	55	0	56	1
作者	1	0	0	1	100
執筆者(友姉)	1	0	0	1	100
祖父	1	2	0	3	33.3
母	1	0	0	1	100
姉	0	1	1	2	0
一般人	0	3	1	4	0
近所の年下	0	1	0	1	0
先輩	0	1	0	1	0
他校の生徒	0	1	0	1	0
同級生	0	5	0	5	0

表 9～11 と表 12～13、表 14 とでは「(ヤ)アル」使用の性質が大きく異なるため、別々に考察する。

まず表 9～11 に注目してみると、共通して待遇されやすい人物は、「同級生」と「先生」であることが理解できる。「同級生」に対しては、DAN1 では 40%、DAN2 では 29.1%、DAN3 では 36%の割合で使用されており、約 30～40%の使用率と、ある程度一定であることが理解できる。一方で、自分の知らない「他校の生徒」(同級生と思われる)に対して使用する場合は、DAN1 では 25%、DAN2 では 100%、DAN3 では 16%となっている。DAN2 に関しては、その使用が 1 回のみであり正確なデータとは言えないため、DAN1 と DAN3 とで考えると、15～25%の使用率になる。同じ身分と年齢であるにも関わらず使用率が約

15%減少していることより、「自分と関わりのある人物に対して使用しやすい」ということが考えられる。

「先生」に対する使用率は、DAN1では55.5%、DAN2では40%、DAN3では36.3%であり少し幅があるものの、「同級生」よりも若干高い数値をマークしている。**4.3.3 第三者待遇**においては、「友達」に使用すると回答した人は74%、「先生」に使用すると回答した人は60%であったが、実際の会話内において使用されやすい人物は、「先生」であることがわかった。

DAN4とDAN5は男性話者同士の会話であり、DAN1～DAN3(いずれも女性話者同士)と比較すると、「(ヤ)アル」の使用回数は圧倒的に少なくなっている。DAN1～DAN3の分析では「先生」が待遇されやすいとしていたが、DAN4では「(ヤ)アル」の使用はたった4%程度であり、無標形式がほとんどであった。むしろ軽蔑・卑蔑表現「ヨル」や「トル」を用いて「先生」を待遇しているところが11箇所あり、「(ヤ)アル」よりも多い結果となっていた。

DAN6については第三者の行動に言及している箇所が少なかったが、その中でも「父/母」や「祖父/祖母」、「弟」など身内に対する使用が多く見られた。

「先生」や「同級生」が待遇されやすいことは理解できたが、広く使用の傾向を明らかにするために、全談話で待遇されている人物を表15のように簡単にまとめた。無生物やキャラクター、歴史上の人物については「その他」に分類している。( )内には無標形式で待遇された回数を記載している。使用率は、少数第2位以下を切り捨てている。

表15 全談話で待遇されていた人物とその割合

	ソト・上	ウチ・上	ソト・対	ソト・下	ウチ・下	その他
DAN1	45(69)	4(15)	11(19)	1(0)	2(0)	2(3)
DAN2	15(33)	2(10)	22(49)	0(0)	0(0)	1(36)
DAN3	9(15)	6(1)	53(108)	0(3)	0(0)	1(9)
DAN4	9(146)	0(0)	1(6)	0(0)	0(0)	0(0)
DAN5	0(12)	0(0)	4(51)	0(0)	0(0)	0(0)
DAN6	10(4)	7(4)	0(6)	0(1)	1(1)	0(0)
使用率	23.9	38.7	27.5	20	75	7.5

また以下は談話の具体的な内容であり、「(ヤ)アル」が使用されている箇所については□で囲っている。

「ソト・上」

(例 a)DAN1 待遇対象:アイドル

M08F03

なんか お友達と ご飯 食べに 行って やーるのを ただ 撮る だけやけど

「ウチ・上」

(例 b)DAN6 待遇対象:祖母

S09F12

ばあちゃん たまにさ うちに きゃーてさ

「ソト・対」

(例 c)DAN5 待遇対象:同級生

N08M09

10 分間の 勉強で 13 点 取って やーた

「ソト・下」

(例 d)DAN1 待遇対象:友人の妹

I08F01

え 兄弟 いる A(M08F03)ちゃん

M08F03

妹 中学生の

M09F02

2 人姉妹

M08F03

2 人姉妹で 中 3

M09F02

B 高 きゃーる

「ウチ・下」

(例 e)DAN6 待遇対象:弟

S08F10

2 万円のさ 靴の スニーカーを 買って もらって やーたんよ

「その他」

(例 f) DAN1 待遇対象: 小学校

M09F02

C 小学校が D 中学校 行かーるん

表 15 より、身内・非身内や上下関係を問わず、「(ヤ)アル」が全対象をマークしていることが理解できる。目下に対する使用は少なく見えるが、そもそも目下を主語として言及している箇所が非常に少ないため、一概に待遇されにくいとはいえない。

また使用率に注目すると、上下関係なく非身内よりも身内のほうが待遇されやすいという傾向がわかる。これは、「(ヤ)アル」が「距離のある人物に使用される傾向にある」(p.137)と指摘する酒井(2015b)とは異なる結果である。「他校の生徒」よりも「同級生」が待遇されやすかったことも考慮に入れると、やはり「自分と関わりのある人物に対して使用しやすい」という結論に至る。このような傾向は、「(ヤ)アル」の親愛語化を裏付けるものになるだろう。ただし、「素材に対して、かわいいと思う気持ち、親しみを表す形式」という意味合いのうち、「親しみを表す形式」という部分が大きく、「かわいいと思う気持ち」はそれほど含まれていないように思う。そのため、「(ヤ)アル」は、部分的に親愛語化しているといえる。

談話の内容的には DAN1 と DAN4 が、「先生」の話が多くしていた点で似通っている。具体的な内容は、両談話とも先生への評価(悪口や癖など)であり、DAN1 と DAN4 とで使用する傾向は似ていても不思議ではないはずである。それにもかかわらずこのように結果が大きく異なるのは、話者の違い、性別の違いと言えよう。

(例 g) DAN1 待遇対象: 先生

I08F01

E 先生って なんか すーって やらーれん

N09F02

しゃーる しゃーる しゃーる めっちゃ しゃーる そういうの

I08F01

ほんでさ 言葉の 節々にさ ねえじゃないけど 変な言葉 言わーる の わかる

(例 h) DAN4 待遇対象: 先生

S08M07

なんか 毎回 言ってくるよ なんか なんか 勉強 勉強の やり方が なんか  
なんか めっちゃ 説明して くるよな

(例 i) DAN4 待遇対象:先生

K09M08

あんま もう なんか テスト 関係ないとか 言っとった あいつ

キャラクターや歴史上の人物など、実際に存在しないものを対象とする場合「(ヤ)アル」の使用率は大きく下がる。全談話を通してキャラクターは「(ヤ)アル」を3回使用され(待遇対象となったのは全82回)、歴史上の人物は一度も使用されていない。また動物に関しては一度も「(ヤ)アル」を使用されていなかった。

### 5.2.2 「(ヤ)アル」と接続する動詞について

各談話内で「(ヤ)アル」と接続していた動詞とその使用率をまとめたものが表16~21である。「(ヤ)アル」が接続していなかった本動詞については表には記載していない。使用率は、少数第2位以下を切り捨てている。

表16 DAN1内で「(ヤ)アル」と接続していた動詞とその割合

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
～ている	30	9	0	39	76.9
～てくれる	3	3	0	6	50
～てくる	2	3	0	5	40
～てしまう	0	0	0	0	0
～する	2	16	0	18	11.1
する	6	0	0	6	100
言う	3	5	0	8	37.5
行く	3	1	0	4	75
いる	3	10	0	13	23
やる	3	1	0	4	75
怒る	2	0	0	2	100
書く	2	0	0	2	100
収まる	1	0	0	1	100
踊る	1	1	0	2	50
思いつく	1	0	0	1	100
返す	1	0	0	1	100
来る	1	5	0	6	16.6

就く	1	0	0	1	100
つける	1	0	0	1	100

表 17 DAN2 内で「(ヤ)アル」と接続していた動詞とその割合

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
～ている	14	18	2	34	41.1
～てくれる	0	3	0	3	0
～てくる	4	4	0	8	50
～てしまう	1	3	0	4	25
～する	2	2	0	4	50
言う	4	6	0	10	40
いる	3	20	0	23	13
やる	3	2	0	5	60
来る	2	1	0	3	66.6
行く	1	3	0	4	25
怒る	1	0	0	1	100
出す	1	0	0	1	100
作る	1	2	0	3	33.3
取り組む	1	0	0	1	100
払う	1	1	0	2	50
細める	1	0	0	1	100

表 18 DAN3 内で「(ヤ)アル」と接続していた動詞とその割合

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
～ている	41	18	0	59	69.4
～てくれる	1	3	0	4	25
～てくる	3	4	1	8	37.5
～てしまう	0	0	0	0	0
～する	2	1	0	3	66.6
いる	7	15	0	22	31.8
行く	4	3	0	7	57.1
言う	3	2	0	5	60
買う	1	0	0	1	100

帰る	1	0	0	1	100
聞く	1	2	0	3	33.3
する	1	7	0	8	12.5
出す	1	0	0	1	100
作る	1	0	0	1	100
流す	1	1	0	2	50
やる	1	1	0	2	50

表19 DAN4内で「(ヤ)アル」と接続していた動詞とその割合

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
～ている	6	79	7	92	6.5
～てくれる	1	2	0	3	33.3
～てくる	1	7	1	9	11.1
～てしまう	1	2	0	3	33.3
～する	0	0	0	0	0
配る	1	2	0	3	33.3

表20 DAN5内で「(ヤ)アル」と接続していた動詞とその割合

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
～ている	3	34	5	42	7.1
～てくれる	0	1	0	1	0
～てくる	0	1	0	1	0
～てしまう	0	1	0	1	0
～する	0	0	0	0	0
帰る	1	0	0	1	100

表21 DAN6内で「(ヤ)アル」と接続していた動詞とその割合

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
～ている	8	9	0	17	47
～てくれる	0	0	0	0	0
～てくる	3	2	0	5	60
～てしまう	0	3	0	3	0

～する	0	3	0	3	0
来る	2	2	0	4	50
言う	1	4	0	5	20
する	1	4	0	5	20
作る	1	2	0	3	33.3
始める	1	0	0	1	100
辞めていく	1	0	0	1	100
やる	1	0	0	1	100

「～ている」、「～てくれる」、「～てくる」、そして「～しまう」に関しては後述するため、まずはその他の動詞について記述する。

アンケート調査の結果からは、「いる」と「行く」に「(ヤ)アル」が接続しやすいと考察していた。今回の談話調査では出現回数が少なく正確なことは言えないが、表 16～21 より、特別この 2 つの動詞に接続しやすいわけではないことが理解できる。よってここまでの調査から、「(ヤ)アル」が接続するかしなないかは、待遇される人物に影響される」とまとめることができる。

次に、「(ヤ)アル」と補助動詞の関係について注目する。各談話内で「(ヤ)アル」と接続していた補助動詞とその使用率をまとめたものが表 22 である。具体的な補助動詞は、表 16～21 に示しているとおりでである。使用率は、少数第 2 位以下を切り捨てている。

表 22 各談話内に登場した補助動詞と「(ヤ)アル」の接続関係

	(ヤ)アルあり (回)	(ヤ)アルなし (回)	その他の 素材待遇形式	合計(回)	(ヤ)アル使用率 (%)
DAN1	35	15	0	50	70
DAN2	19	28	2	49	38.7
DAN3	45	28	1	74	60.8
DAN4	9	90	8	107	8.4
DAN5	3	37	5	45	6.6
DAN6	11	14	1	26	42.3

DAN1～3、そして DAN6 においては、高確率で補助動詞に「(ヤ)アル」が接続していることが見て取れる。また DAN4 と DAN5 に関しても、DAN4 では全 10 回の「(ヤ)アル」使用の内 9 回が、DAN5 では全 4 回の「(ヤ)アル」使用の内 3 回が補助動詞とともに使用されており、補助動詞の存在は見過ごせない。「先生」や「同級生」といった待遇されやすい人物の影響を受けているともいえるが、例外もいくつかみられた。以下に例をあげる。

(例 j)DAN2 待遇対象:キャラクター

I08F01

どんな 話

I10F04

えーと まず 天界ってのが あるんよ その 天界って マジで ゴミが 一切ない  
すっごく 綺麗で 清潔な 場所なん (その) 裏腹に なんか スラム街 みたいな  
のが ある 天界の そこに 全部 ゴミを 押し付け られる で その まあ

まあ でも スラム街やけど 元気に 過ごして やーるんや

(例 k)DAN3 待遇対象:キャラクター

Y08F05

そう えっと 長崎と 福岡と うわー 熊本や くまモン いた

S09F06

くまモン いいな

I08F01

かわいい

Y08F05

くまモンが サプライズで 来てくれやーたん

(例 j)は、I10F04 が好きなアニメについて説明している場面である。キャラクターという非常に「(ヤ)アル」で待遇されにくい対象であるにもかかわらず、DAN2 内ではこの箇所だけは「(ヤ)アル」が接続していた。DAN 2 でキャラクターに対して「(ヤ)アル」が接続していなかったのは 17 箇所であり、そのうち 1 つは「～てしまう」という補助動詞であったものの、その他は全て本動詞であり、補助動詞の存在が、「(ヤ)アル」の接続に影響を与えていると十分に考えられる。それを裏付けるように、(例 k)ではキャラクターであるくまモンに対して「～くれる」という補助動詞のあとに「(ヤ)アル」が接続していた。直前の「くまモンいた」には「(ヤ)アル」が接続していないことから、「～くれる」という言葉が、「(ヤ)アル」の出現に関与しているといえる。

酒井(2015b)は、「(ヤ)アル」と補助動詞の関係について以下のように述べている。

長浜市方言では、「～くれる」「～ておく」「～てしまう」に素材待遇形式が後接する割合が高く、(ヤ)アルがもっとも多く用いられている。これらの表現に素材待遇形式が後接する場合、規範的使用から外れることがあるが、それは特定の表現と素材待遇形式が結びつきやすいという慣習的な使用によるものと考えられる。 (p.166)

そしてその理由として、以下のように考察している。

「～てくれる」「～ておく」「～てしまう」とともに素材待遇形式が用いられやすいのは、その表現が描写する事態とのかかわりがあるとも考えられる。すなわち、恩恵という対人配慮に関わる要因が働いているものや（「～てくれる」）、何か良くないことを含意することが多い表現（「～てしまう」）とともに用いられることがあり、これらは個々の文脈の中で待遇以外の効果も同時にもたらしていると考えられる（後略）（pp.166-167）

以上より、「待遇以外の効果」が働くことで、補助動詞に「(ヤ)アル」が接続しやすいことが理解できる。4.1LINE を用いての調査において立てた、「くれる」は他者が自分に対して何か好意的なことを行った際に使用する動詞・補助動詞であり、敬意の含まれた言葉であるため、「(ヤ)アル」が続きやすい」という仮説が立証された。また、「～てしまう」については、完了の意味ではあるが、多くの場合後悔や残念な気持ちが伴って使用されるため、相手への配慮や寄り添いの気持ちから「(ヤ)アル」が使用されていると考える。

ここまでで「～てくれる」と「～てしまう」については説明できたため、続いて「～ている」と「～てくる」について考察する。

まず「～ている」に関しては、第三者の話をするとき、その人物が何かを「していた」ことを言及することが必然的に多くなるため、「～ている」にたくさん接続するのだと考えられる。

次に「～てくる」については、執筆者の内省では「自分に向かってやってくる」という、「相手と自分自身が関わりをもつ」言葉であり、その人物が自分と近い距離間の人物に変わるため、「～(ヤ)アル」を使っているように思う。これは、先述の「自分と関わりのある人物に対して使用しやすい」という考察と一致している。

補助動詞は、それぞれ使用の意図に違いはあるものの、全体的に「(ヤ)アル」が接続しやすいということが判明した。本来であれば待遇されにくい対象に対しても「(ヤ)アル」を出現させるという点で、非常に強い効力を有しているといえる。

### 5.2.3 「(ヤ)アル」の発音について

談話中では、「やーる」のように長音符を使用して発音する場合はほとんどだったが、異なる発音をしているインフォーマントもいた。

(例1) DAN1 待遇対象:執筆者(友人の姉)

M08F03

お姉ちゃん すごいな やーるっていう 研究って なんで やーる ふと

思いつかったんやろな

(例 m)DAN4 待遇対象:先生

K09M08

今日も テスト返し してやったけど

(例 n)DAN2 待遇対象:同級生

I08F01

ずっと クネクネ シャーンの 関節 あるんかな あれ

I10F04

関節 タコやん それもう

I08F01

「ん どうした」 みたいな で 怒ると 目を 細めやーンの

(例 o)DAN6 待遇対象:除雪車(の人)

S08F10

ちょっと 前まで 入って きゃーンねん でも 除雪車

DAN1 の M09F02 は、もちろん「やーた」と発音していた箇所もあったが、談話内で計6回、「やった」と促音を用いて発音していた。酒井(2015b)では、表23のように、「(や)あった」と「あ」の後ろに促音を置いていることがわかるが、M09F02 や K09M08 の発音では「あ」が消失している。これは全インフォーマントの中でM09F02、K09M08、S08M07に見られたものであり、会話の中でスムーズに発音するための省略であると考えられる。一方で「やる」のように、現在形で促音が使用されることはなかった。これは「(ヤ)ハル」において「はっる」と言うことが無いことと共通している。

また I08F01 は、DAN2 内で「やーる」を「やーん」と発音している箇所が計6回あった。その他にも S08F10 がこのように「る」を「ん」と発音していた。この2つの発音方法については面接調査において詳しく調査する。

#### 5.2.4 対者待遇と第三者待遇

談話内において、対者で「(ヤ)アル」を使用している箇所はないということは既に述べているが、「対者で使用しない」ことを裏付けるデータが得られたため以下に示す。

(例 p)DAN3 待遇対象:I08F01

Y08F05

これ すごくない

S09F06

どれ あ これ 作らーたんかな

(例 q)DAN3 待遇対象:I08F01

Y08F05

F(I08F01)ちゃん 知ってやーるん

DAN3 は I08F01、Y08F05、そして S09F06 の 3 人によって発話場は構成されていたが、(例 p)と(例 q)は、I08F01 が席を外した数分間に発声されたものである。これまで I08F01 に対して Y08F05 と S09F06 が「(ヤ)アル」を使用することはなかったのにもかかわらず、その場からいなくなった瞬間に「(ヤ)アル」で待遇するようになっている。これは、少なくとも Y08F05 と S09F06 の中では「(ヤ)アル」が第三者マーカー化しているということである。酒井(2015b)の「第三者待遇偏用の傾向は認められるが、第三者マーカーとしては機能していない。」(p.181)という見解とは異なり、坪井(2025)が指摘する通り、「(ヤ)アル」は第三者マーカー化してきているようである。酒井(2015b)が調査した 1924~1954 年生まれの老齢層と現在の中高生とでは「(ヤ)アル」の使用方法が変化しているのである。

表 23 長浜市方言の素材待遇形式の動詞への接続および活用 酒井(2015b)より一部抜粋

素材 待遇形式	語幹	接続 可否	屈折接辞				派生接辞		
			終止・連体	中止	順接条件	過去	命令	否定	丁寧
ハル	子音	○	行かハル/ 行きハル	行かハッテ/ 行きハッテ	行かハッター/ 行きハッター	行かハッタ/ 行きハッタ	×	行かハラヘン/ 行きハラヘン	行かハリマス/ 行きハリマス
	母音 力変	○	見ハル	見ハッテ	見ハッター	見ハッタ	×	見ハラヘン	見ハリマス
	サ変	○	キハル	キハッテ	キハッター	キハッタ	×	キハラヘン	キハリマス
		○	シハル/ サハル	シハッテ/ サハッテ	シハッター/ サハッター	シハッタ/ サハッタ	×	シハラヘン/ サハラヘン	シハリマス/ サハリマス
ヤハル	子音	×	×	×	×	×	×	×	×
	母音 力変	○	見ヤハル	見ヤハッテ	見ヤハッター	見ヤハッタ	×	見ヤハラヘン	見ヤハリマス
	サ変	○	キヤハル/ キャハル	キヤハッテ/ キャハッテ	キヤハッター/ キャハッター	キヤハッタ/ キャハッタ	×	キヤハラヘン/ キャハラヘン	キヤハリマス/ キャハリマス
		○	シヤハル/ シャハル	シヤハッテ/ シャハッテ	シヤハッター/ シャハッター	シヤハッタ/ シャハッタ	×	シヤハラヘン/ シャハラヘン	シヤハリマス/ シャハリマス
アル	子音	○	行かアル	行かアッテ	行かアッター	行かアッタ	×	行かアラヘン	行かアリマス
	母音 力変	○	見アル	見アッテ	見アッター	見アッタ	×	見アラヘン	見アリマス
	サ変	○	キアル	キアッテ	キアッター	キアッタ	×	キアラヘン	キアリマス
		○	シアル/ サアル	シアッテ/ サアッテ	シアッター/ サアッター	シアッタ/ サアッタ	×	シアラヘン/ サアラヘン	シアリマス/ サアリマス
ヤアル	子音	×	×	×	×	×	×	×	×
	母音 力変	○	見ヤアル	見ヤアッテ	見ヤアッター	見ヤアッタ	×	見ヤアラヘン	見ヤアリマス
	サ変	○	キヤアル/ キャアル	キヤアッテ/ キャアッテ	キヤアッター/ キャアッター	キヤアッタ/ キャアッタ	×	キヤアラヘン/ キャアラヘン	キヤアリマス/ キャアリマス
		○	シヤアル/ シャアル	シヤアッテ/ シャアッテ	シヤアッター/ シャアッター	シヤアッタ/ シャアッタ	×	シヤアラヘン/ シャアラヘン	シヤアリマス/ シャアリマス

### 5.3 談話調査のまとめ

談話調査より、「(ヤ)アル」について以下のことがわかった。

- ① 「(ヤ)アル」は部分的に親愛語化しており、「自分と関わりのある人物に対して使用しやすい」という傾向がある。
- ② 男性話者は女性話者よりも「(ヤ)アル」の使用が少ない。
- ③ キャラクターや歴史上の人物、動物に対して使用することはできるが、その使用率は非常に低くなる。
- ④ 「(ヤ)アル」の使用は待遇対象に影響されやすいが、補助動詞があることで、本来であれば待遇されにくい対象に対しても「(ヤ)アル」は出現しやすくなる。
- ⑤ 「(ヤ)アル」の発音は長音符を用いた「やーる」だけではなく、促音や撥音を用いたものもある。

②から④については酒井(2015b)の結果とそれほど相違ないが、①と⑤については酒井(2015b)や坪井(2025)が指摘していない新たな発見であるといえる。

### 6. 面接調査

話者の使用意識に関してアンケート調査よりも正確なデータを得るために、そして談話調査ではみられなかった対者待遇について明らかにするために、面接調査を行った。インフォーマント情報は表 24 に示している。基本的には談話調査の協力者からの抜粋であるが、U09F13 は面接調査のみの参加である。

表 24 インフォーマント情報

インフォーマント ID	性別	年齢	生年	出身地
I08F01	女	17	2008	米原市伊吹
N09F02	女	16	2009	米原市中多良
M08F03	女	17	2008	米原市箕浦
Y08F05	女	17	2008	米原市弥高
S09F06	女	16	2009	米原市春照
S08M07	男	17	2008	米原市醒ヶ井
K09M08	男	16	2009	米原市上丹生
U09F13	女	16	2009	米原市上野

## 6.1 調査結果

### 6.1.1 「(ヤ)アル」の待遇対象について

「(ヤ)アル」を使用する対象についての調査結果を示したものが、図 18 である。長浜市での結果と比較を行うため、図の形式については坪井(2025)を参考にしているが、本論文では「対等」の項目<sup>11</sup>を追加している。図中の●は「言う」と「言わないがおかしくない」、×は「言わないしおかしい」を表している。また、年下の兄弟がいないインフォーマントについては想像で回答してもらっているため、回答の後ろに(?)と付している。

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	●	●	●	●
下	×	×	×	×

上位待遇型

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	×	●	●
下	×	×	●	●

第三者待遇型

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	●	●	●
下	×	×	●	●

上位第三者待遇型

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	●	●	●	●
下	●	●	●	●

全待遇型

図 16 (ヤ)アルの待遇型 坪井(2025) (2.2 図 1 再掲)

また、対象の分類についても坪井(2025)同様、以下のように行っている。

身内		非身内		
目上	目下	目上	対等	目下
父/母	弟/妹	先生	友達 (第三者待遇場面では友達 B)	後輩

図 17 調査項目[2]の人物設定 坪井(2025)

<sup>11</sup> 「対等」の「身内」については想像しにくいと判断したため省略している。

I08F01

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	●	●	●
対等		×		●
下	×	×	●	●

N09F02

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	●	●	●
対等		×		●
下	×(?)	×	×(?)	●

M08F03

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	●	●	●
対等		×		●
下	×	×	●	●

Y08F05

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	×	●	●
対等		×		●
下	×	×	●	●

S09F06

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	●	●	●
対等		×		●
下	×(?)	×	●(?)	●

S08M07

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	×	●	●
対等		×		●
下	×	×	●	●

K09M08

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	●	●	●
対等		×		●
下	×	×	×	●

U09F13

	対者待遇		第三者待遇	
	身内	非身内	身内	非身内
上	×	●	●	●
対等		×		●
下	×	×	●	●

図 18 「(ヤ)アル」の待遇型

上記図より、米原市の若年層の間では、坪井(2025)のいう「上位第三者待遇型」と「第三者待遇型」(図 16)での使用がほとんどであり、対者での使用はほとんどないことが理解できる。Microsoft Forms のアンケート調査では全待遇型の回答をしたインフォーマントが 36 人おり、一見坪井(2025)と同様の結果になりそうであった。しかし面接調査で全待遇型の回

答をした人はおらず、アンケート調査の結果は参考程度にしかならないことが判明した。

またいずれのインフォーマントも、動物やキャラクターに対して使用できると回答したほか、テレビや自転車等の無生物に対しても使用すると回答していた。「エアコン頑張っ  
てやーる(ヤール/ヤアル)」といった、無生物を擬人化し、労わりや応援の気持ちを込めて  
使用することが多いようである。ただし頻繁に使用することはないようで、K09M08に  
いたっては無生物への使用は違和感があると回答していた。執筆者自身はたまに使用して  
おり、たしかに無生物を労わる際に使用していた。これは無生物を近くに感じ、雑に扱いた  
くないという「親愛」のような気持ちが含まれていたように思う。**5.2.1 待遇対象について**  
において、自分と近い人物に使用されやすいという傾向から、親愛語がもつ「素材対  
して、かわいいと思う気持ち、親しみを表す」という機能のうち、「親しみを表す」とい  
う一部分のみを「(ヤ)アル」が獲得していると述べた。しかし、無生物に対して使用され  
る際には、残りの「かわいいと思う気持ち」もこもっていると指摘できる。

その使用率は上下するものの、「(ヤ)アル」で待遇できない対象は存在しない。話し相手  
では使用しない対象に対して、第三者の場合では広く待遇できるという点で、米原市の  
「(ヤ)アル」は第三者指標機能を有するといえる。

- ❶ 1954年以前に生まれた人は、待遇対象が年上のときに顕著に見られる(尊敬語的用法が  
主である)ものの、「(ヤ)アル」を幅広い対者への待遇で使用していた。ただし、身内の年  
下には使用しない。
- ❷ 1967年以降に生まれた人は、幅広い対者に対して使用することが激減したものの、「疎」  
にあたる年上の人物に対しては「(ヤ)アル」を用いていた。
- ❸ 2004年以降に生まれた人は、身内・非身内や上・下を問わず対者に「(ヤ)アル」を使用  
するようになってきている。

対者待遇での用法については、**4.1LINE を用いての調査**において宮治(1987)、酒井  
(2015b)、そして坪井(2025)の調査結果をもとに以上のようにまとめた。しかし、少なくと  
も今回の調査では坪井(2025)の主張する❸のような傾向はみられず、宮治が調査した 1967  
年～1970年生まれのインフォーマントと同様の結果が得られた。坪井(2025)と調査結果が  
異なった理由として、地域の違いと調査方法の違いの2つが考えられる。

地域の違いについては、坪井(2025)は滋賀県長浜市、本論文では滋賀県米原市を調査フイ  
ールドにしていることが挙げられる。両市の位置については図3に示している。

米原市は滋賀県唯一の新幹線停車駅をもち、京都・大阪・名古屋といった大都市へのアク  
セスが非常によい。そのため日常的に大垣・岐阜・名古屋(東側)へ向かう人と長浜・彦根・  
京都(西側)へ向かう人とで生活圏が分散しやすく、言葉が多様化したり、薄まったりして  
いると考えられる。また湖東地域である彦根市と隣接している点も関係しているだろう。坪  
井(2024a)が「ア段ハル<sup>12</sup>ほどの地域でも使用割合が高いが、県北部に行くにつれて徐々に

使用割合が下がり、湖北地域では大きく低下している。」(p.39)と述べるように、湖北地域以外の場所は「(ヤ)ハル」の使用が一般的である。そのため、彦根市と隣接する米原市は「(ヤ)ハル」の影響を受けやすい環境にあると考えられ、その結果として、米原市の「(ヤ)アル」には長浜市とは異なる独自の用法や変容が生じているのではないだろうか。

調査方法の違いについては、坪井(2025)が、Microsoft Forms を用いたウェブアンケートの回答をもとに考察していることが原因に挙げられる。アンケート調査は面接調査と比較して質問者の意図が伝わりづらいため、このような差異が生じたと考えられる。長浜市において今回と同様の面接調査を行えば、全待遇型の実態についてさらに迫れるのではないだろうか。

### 6.1.2 対者待遇と第三者待遇での使用意図の違い II

対者待遇と第三者待遇での「(ヤ)アル」の使用実態について、それぞれのインフォーマントから得られた回答が以下の通りである。

表 25 対者・第三者待遇での「(ヤ)アル」の使用実態

回答者	対者	第三者
I08F01	相手に敬意を払って使用する 自分より立場が上の人物に使用する 相手に興味もっていることの現れ	丁寧語のように使用する
N09F02	相手に敬意を払って使用する 距離感を示している 相手に興味もっていることの現れ	対者より弱い敬意をこめている
M08F03	相手に敬意を払って使用する	目上の人には敬意をこめている 対等や目下にはただの方言
Y08F05	使用しない 使用すると他人事ようになる	親しいと思っている人に使用する 第三者の話をする際に使用するもの
S09F06	相手に敬意を払って使用する 自分より立場が上の人物に使用する 相手に興味もっていることの現れ	丁寧語のように使用する 自分と関わりが少ない人の方が使用する
S08M07	使用しない	特になし
K09M08	丁寧さを表している	特になし 自然と出る
U09F13	距離感が遠い人に使用する	近い人物の方が使用する

<sup>12</sup>坪井(2024a)は、五段活用動詞に未然形接続するハルをア段ハル、連用形接続するハルをイ段ハルとしている。

表 25 より、全てのインフォーマントが対者待遇と第三者待遇とで異なる使用意図をもっていることが理解できる一方で、インフォーマントごとに細かな認識のずれが生じていることがわかる。

対者待遇については「敬意」がこもった表現であるという回答でほとんど共通しており、また自分自身と社会的な距離感が遠い人に対して使用するという回答が得られた。具体的な例としては「先生」や「親戚」が挙げられており、自身よりも立場が上の人物に「敬語」のように使用するようである。

I08F01 と N09F02、S09F06 については、対者への「(ヤ)アル」の使用について、「距離感を保ちつつも親しみを込めている」という回答をしていた。そして N09F02 については、「(ヤ)アル」を使用することで、話し相手と仲良くなりたいというような気持ちを表している」とも発言していた。また M08F03 は、「顧問の若い先生だから使いやすい」とも発言しており、距離感がありつつも、ある程度フラットに話ができる相手に使用するということだと考えられる。つまり、対者への「(ヤ)アル」には「敬意や丁寧さ」と「親しみや日常会話」という 2 つの意味が込められているということである。これは、話し相手に対して「(ヤ)アル」を使用せず、「使用すると他人事のようになって違和感を覚える」という回答をした Y08F05 と全く異なる使用意識である。

今日における米原市の若年層の多くは、「敬語」として非身内の年上に対してのみ、「(ヤ)アル」を対者待遇として使用するようである。また「(ヤ)アル」の対者での使用をそもそも行わないインフォーマントもおり、現在はほとんどの場合、第三者待遇でのみの使用になっていることが改めてわかった。

第三者待遇では、大きく 2 つの使用意識がみられた。I08F01 と N09F02、S09F06 は「丁寧語」のように使用している一方で、対者の場合と比較するとその待遇価は少し下がり、対者への「(ヤ)アル」と第三者への「(ヤ)アル」は別物であると発言していた。Y08F05 と U09F10 についても比較的回答は似ており、自分と親しく、距離感の近い人物に使用するようである。これに対して S09F06 は、「自分と関わりが少ない人の方が使用する」という正反対の回答をしており、S09F06 にとっての「(ヤ)アル」は対者・第三者ともに、他のインフォーマントと比較すると敬意の意味合いが多く含まれた言葉であると理解できる。

また面白い回答として、M08F03 のものが挙げられる。M08F03 は目上には「敬語」、同等以下には単なる方言として使用しているようで、「(ヤ)アル」という一語を細かな意識で使い分けているのである。これは執筆者の内省とも似ている。複数の素材待遇形式を使い分けると意識が、「(ヤ)アル」1 語を使い分けると意識となって残っているということであろうか。

また S08M07 と K09M08 の男性話者については、使用意図は特になく、方言として自然に使用していると答えていた。男性話者には女性話者ほど細やかな意識がないということであろう。

第三者待遇場面での「(ヤ)アル」はやはり、「敬意や丁寧さ」から「親しみや日常会話」、

そして「癖や無意識」という幅広い意味合いで使用されているようである。

面接調査を行うことで、アンケート調査の結果から立てた「対者待遇と第三者待遇で待遇価が異なる可能性がある。」という仮説を立証することができた。しかし全く異なるということではなく、込められる意味合いの比重の問題であると考えられる。つまり、対者待遇での「(ヤ)アル」は敬意の中に親しみの感情がこもった言葉である一方で、第三者待遇での「(ヤ)アル」は対者と比較して敬意は薄れ、親しみの感情がより大きくなった表現だということである。これは、表 26 のようにまとめられる。表の◎、○、そして△は、「(ヤ)アル」に込められた意味の大きさを表している。

表 26 「(ヤ)アル」のもつ意味

	対者待遇	第三者
敬意	◎	○
親しみ	△	◎

また、対象に応じて細かく使用意図をわけると以下のようなになる。

表 27 対象別「(ヤ)アル」のもつ意味

	対者待遇	第三者待遇
ソト・上	敬意、親しみ	丁寧な気持ち、親しみ
ウチ・上		丁寧な気持ち、親しみ
ソト・対		丁寧な気持ち、親しみ、単なる方言
ソト・下		丁寧な気持ち、親しみ、単なる方言
ウチ・下		丁寧な気持ち、親しみ、単なる方言
無生物		応援や労わりの気持ち、かわいいと思う気持ち

以上の特徴は酒井(2015b)の主張とは異なるものであり、現在の「(ヤ)アル」特有の性質であるといえる。酒井(2015b)は、「対者待遇と待遇価が異なることによって、複数の素材待遇形式を切り換えて発話場におけるさまざまな関係性をあらわすことができ、素材待遇形式の使用が語用論的効果を生むものとなっている。」(p.182)と主張している。しかし、今日の「(ヤ)アル」は対者と第三者とで待遇価が変化し、それに伴って使用対象が異なっているのである。「(ヤ)ンス」や「(ヤ)ハル」などの素材待遇形式を使用しなくなっている現在は、「(ヤ)アル」にその他素材待遇形式の役割が統合され、「(ヤ)アル」1語が広く用いられているのである。

### 6.1.3 「(ヤ)アル」の発音について

面接調査において、談話調査でみられた「(ヤ)ッタ」や「(ヤ)アン」のような発音についていくつか質問をした。

促音を用いた発音については、N09F02、Y08F05、S08M07そしてK09M08が使用すると回答した。その他のインフォーマントについても意味はしっかりと理解できるようで、違和感は無いようである。Y08F05に発音意図を聞くと、「発音が短くなるから会話を巻きたいときに使う」という回答が得られ、「会話の中でスムーズに発音するための省略である」という考察は正しかったようである。またS08M07については「(ヤ)アル」を現在、「(ヤ)ッタ」を過去として使い分けをしていると発言していた。

Y08F05とK09M08は無意識であったが、これは「(ヤ)ハル」方言の影響を受けているとも考えられる。「(ヤ)ハル」を使用する話者が、「食べはった」のように促音を含んだ発音をするのを聞く機会は非常に多い。これに影響を受け、「(ヤ)アル」についても促音を用いた発音が自然になっているのではないだろうか。

「(ヤ)アン」については、I08F01とK09M08以外使用したことがないと回答した。I08F01に使用の意図を聞くと、「やーるねんの略」という回答が得られ、こちらにおいても会話の中でスムーズに発音するための省略が見られた。またK09M08は「(ヤ)アン」について、「同じ立場(友達など)以外の人には使わない」と回答しており、あまり丁寧な表現ではないようである。

その使用はまだまだ一般的になっているわけではないが、今日の「(ヤ)アル」は会話のテンポを保つにあたって省略され、複数の発音方法が生まれていることが調査により判明した。「(ヤ)アル」の具体的な発音の現状について明らかにした論文はないため、新たな発見と言えよう。

## 6.2 面接調査のまとめ

面接調査より、「(ヤ)アル」について以下のことがわかった。

- ①米原市の若年層の間では「上位第三者待遇型」と「第三者待遇型」での使用がほとんどであり、「全待遇型」はみられない。
- ②エアコンや自転車などの無生物に対して、労わりや応援の気持ちをもって使用できる。
- ③「(ヤ)アル」は第三者指標機能を有する。
- ④「(ヤ)アル」は、対者待遇と第三者待遇とで使用意図が異なっている。対者待遇では、社会的な距離がありつつも近しく感じる相手に対して「敬語」として使用する。一方で第三者待遇では、全ての対象に対して「丁寧語」や「単なる方言」として使用している。また両待遇には「親しみ」の気持ちもこもっている。
- ⑤「(ヤ)アル」は親愛語化している。
- ⑥「(ヤ)アル」の発音には会話をスムーズにするための省略がみられる。

## 7.調査のまとめと考察

本章では、本研究における4つの調査結果に基づき、米原市での「(ヤ)アル」の使用状況、および長浜市との相違点について整理し、記述する。

### 7.1 米原市における「(ヤ)アル」の使用状況

調査方法により結果が異なるものもあったが、調査全体を通しての結果と考察を以下にまとめる。

#### ①若年層における素材待遇形式の変容

米原市の若年層においては「(ヤ)ハル」や「(ヤ)ンス」といった他の素材待遇形式はほとんど使用されず、「(ヤ)アル」という一語が圧倒的に多用されている。ここには「敬語体系の単純化」という言語変化の側面が読み取れる。

本来、敬語は相手や場面に応じて複数の形式を使い分ける必要があるが、敬語習得の途上にある若年層にとっては容易なことではない。こうした背景から、複数の素材待遇形式を「(ヤ)アル」という単一の形式に集約させ、これさえ用いれば広範な場面で丁寧な表現が可能になるという「汎用性の高い敬語的用法」を構築したと考えられる。

興味深いことに、こうした言語形式の単純化が進む一方で、話者の意識レベル、特に女性においては、その一語の中に複数の意味や機能を付与し、状況に応じて使い分けるといった「運用の多義性」が保持されている。つまり、表層的な語彙数は減少・単純化しながらも、その深層にある意味の広がりや、依然として複雑に維持されているのである。

#### ②対者待遇と第三者待遇における「(ヤ)アル」の機能差

対者待遇と第三者待遇とで、「(ヤ)アル」の意味及び待遇価は異なっている。

まず、話し相手に対して「(ヤ)アル」を用いる場合、その対象は先生や親戚など、自分より立場が上の非身内に限定される。ここでは「敬意」や「丁寧さ」の表明が強く意識されており、「堅苦しすぎず失礼でもない」適切な距離を保つための丁寧な言葉として運用されている。

一方で話題の人物について言及する第三者待遇においては、使用率が飛躍的に高まり、その機能も変容する。対象は家族や友人、さらには無生物（エアコン等）にまで及び、身内・非身内を問わず全対象をマークする「第三者マーカー」としての側面を強めている。ここでは「敬意」よりも「親しみ」や「日常」のニュアンスが優先され、かつて「(ヤ)ンス」が担っていた親愛語的な役割を吸収し、対象への労わりや親近感を込める万能な形式へと進化を遂げている。

対者待遇と第三者待遇で「(ヤ)アル」の待遇価が異なる理由として、以下の3点が考えられる。

第一に、対人配慮と教育的背景の影響が挙げられる。話し相手が目の前に存在する場合、

「失礼があってはならない」という心理的な抑制が話者に働く。特に若年層は、学校教育(主に国語教育)を通じて標準語による敬語体系を学習しており、目上の人物に対して方言で待遇することに違和感や抵抗感を抱きやすい。そのため、対者への使用は先生や親戚など、一定の信頼関係がありつつも敬意を示すべき「特定の目上」に限定されることになるのだろう。

第二に、物理的・心理的な距離の解放である。第三者待遇においては、話題の人物がその場にいないため、対面時のような緊張感や規範意識から解放される。その結果、相手を選ばず誰に対しても「(ヤ)アル」を使用できる環境が生まれ、使用のハードルが下がることで「親しみ」や「日常」のニュアンスが入り込む余地が生じるのである。

第三に、「第三者マーカー」としての機能的な有用性である。あえて第三者に対して「(ヤ)アル」を多用することで、現在誰のことについて話しているのかを明確にする標識(マーカー)としての役割を果たしている。これにより、対面での配慮を優先する「対者待遇」と、情報の整理と親愛を優先する「第三者待遇」とで、結果的に待遇価の分化が起きていると考えられる。

### ③音声形態の多様化と発音の簡略化

「(ヤ)アル」の音声的なバリエーションに注目すると、長音を含む「やーる」、促音を伴う過去表現「やった」、そして撥音を含む「やーん」の三種類が確認できる。

これら後者二つの形式(「やった」、「やーん」)は、発音の簡略化によって会話のテンポを維持し、コミュニケーションを円滑にするための「省力化」の結果であると考えられる。こうした発音の利便性は、現代の若年層のスピード感のある会話形式と親和性が高く、現在その使用が広がりつつある新たな発音形態であると思われる。

## 7.2 湖北地域における「(ヤ)アル」の使用状況

本研究が対象とした米原市の若年層の調査結果は、先行研究である酒井(2015b)と坪井(2025)が示した長浜市の状況と比較して、いくつか相違点が見受けられた。

### ①待遇価の差異と第三者指標機能としての定着

酒井(2015b)は、対者待遇と第三者待遇とで待遇価が異ならないと指摘しているが、本調査では両者の待遇価が異なるという結果が得られた。この相違が生じた要因としては、酒井(2015b)の調査から十年が経過したことに加え、両調査の対象となる年齢層が全く異なる点が挙げられる。

### ②対者待遇の地域差とその背景

坪井(2025)は、対者場面で広く使用可能な「全待遇型」の存在を指摘したが、本調査では同様の傾向は確認されなかった。この要因としては、地域差による運用の違いに加え、調査手法の相違が結果に影響を及ぼした可能性の2点が考えられる。

## 8.おわりに

本研究では、滋賀県米原市の若年層における「(ヤ)アル」の使用状況とその運用について調査を行い、その実態を明らかにしてきた。

調査を通じて得られた結果を総括すると、現代の若年層においては、かつて湖北地域に多く存在していた素材待遇形式が「(ヤ)アル」という一語に集約され、敬語体系の単純化が進んでいるという側面が読み取れる。本来、敬語は相手や場面に応じて複数の形式を使い分ける必要があるが、敬語習得の途上にある若年層にとっては容易なことではない。こうした背景から、汎用性の高い「(ヤ)アル」を用いることで、複雑な体系を運用する負担を軽減しながら、効率的かつ円滑な意思疎通を図っていると考えられる。しかしこうした単純化が進む一方で、その運用においては高度な多義性が保持されていることも判明した。執筆者の内省にもあった通り、対面時の「対者待遇」においては特定の目上に対して適切な距離を保つ敬語として機能し、話題の中の「第三者待遇」においては親しみや日常のニュアンスを含めた「第三者マーカー」として機能している。表層的な語彙数は減少しながらも、その深層にある意味の広がりや、若年層独自の言語運用上の工夫によって複雑に維持されていると言えるだろう。

また、先行研究との比較においては、酒井(2015b)や坪井(2025)が示した長浜市の状況とは異なる結果が得られた。酒井(2015b)との比較では、対者と第三者の待遇価に明らかな差異が認められたが、これは先行調査から十年が経過したことや、調査対象の年齢層が全く異なることが要因であると考えられる。また、坪井(2025)が指摘した対面場面における「全待遇型」の存在も、本調査では確認されなかった。こうした相違は、地域差による運用の違いに加え、調査手法の相違が結果に影響を及ぼした可能性も否定できない。

本研究の課題として、調査地点が米原市に限定されたことや、対象人数に限りがあった点が挙げられる。今後は、周辺地域との境界線や、若年層が構築したこの新たな体系が他世代へどのように波及していくのかを、時間的な推移とともに検証していくことが求められる。管見の限りでは未だ明らかになっていない米原市周辺の言語変容を今後も注視していくことが、湖北地域の方言研究における重要な展望になると考える。

## 謝辞

アンケートや談話・面接調査にご協力いただいた米原市内の中高生の皆様に深く感謝申し上げます。皆様のおかげで貴重な知見を得ることができました。心より厚く御礼申し上げます。

## 9.参考文献・参考資料

- ・ 今田美咲(2022)「滋賀県栗東市方言における待遇表現形式の記述的研究」『阪大社会言語学研究ノート』18巻,大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室,pp.26-46
- ・ 笈大城(1962)「滋賀県方言」榎垣実(編)『近畿方言の総合的研究』,三省堂,pp.159-217
- ・ 笈大城(1982)「滋賀県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一(編)『講座方言学7-近畿地方の方言-』,国書刊行会,pp.53-86
- ・ 菊地康人(2003)『朝倉日本語講座8 敬語』,朝倉書店
- ・ 岸江信介(1998)「京阪方言における親愛表現構造の枠組み」『日本語科学』第3巻, 国立国語研究所,pp.23-46
- ・ 酒井雅史(2012)「滋賀県長浜市における待遇表現の記述：日本語諸方言の待遇表現記述にむけて」『待兼山論叢 日本学篇』第46巻,大阪大学文学部,pp.81-96
- ・ 酒井雅史(2014)「滋賀県長浜市方言における待遇表現形式の使い分け：面接調査による使い分けの意識から」『阪大日本語研究』第26巻, 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座,pp.87-112
- ・ 酒井雅史(2015a)「滋賀県長浜市方言における素材待遇形式の運用：語用論的運用とその要因」『阪大日本語研究』第27巻,大阪大学大学院文学研究科日本語学講座,pp.163-194
- ・ 酒井雅史(2015b)「滋賀県長浜市方言の素材待遇形式に関する記述的研究」,大阪大学博士論文
- ・ 酒井雅史(2019)「関西方言における素材待遇形式の分布：読みがたり昔ばなし資料を手がかりに」『阪大日本語研究』第31巻, 大阪大学大学院人文学研究科基盤日本語学講座,pp.1-15
- ・ 柴田武ほか(1977)『岩波講座 日本語 11 方言』,岩波書店
- ・ 辻加代子(2009)『「ハル」敬語考 京都語の社会言語史』,ひつじ書房
- ・ 坪井菜央(2022)「滋賀県長浜市若年層の素材待遇形式の使用実態と運用方法の変遷について—(ヤ)アルの待遇型に注目して—」『日本方言研究会第115回研究発表会発表原稿集』,日本方言研究会,pp.1-8
- ・ 坪井菜央(2023)「滋賀県長浜市方言における素材待遇語(ヤ)ンスの通時的考察」『日本方言研究会第117回研究発表会発表原稿集』,日本方言研究会,pp.17-24
- ・ 坪井菜央(2024a)「滋賀県における若年層の素材待遇語の使用実態—第三者待遇偏用から「関係者待遇」へ—」,日本語学会2024年度秋季大会予稿集,pp.37-42
- ・ 坪井菜央(2024b)「滋賀県長浜市方言における素材待遇語(ヤ)ンスの通時的考察」『國文學』第108巻,関西大学国文学会,pp.262-247
- ・ 坪井菜央(2025)「滋賀県長浜市方言における素材待遇語(ヤ)アルの若年層の使用実態に関する考察」『國文學』第109巻,関西大学国文学会,pp.206-191
- ・ 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編(1972)『日本国語大辞典第二版 第八巻』,小学館

- ・ はびろネット東西東西プロジェクト編(2014)『滋賀・岐阜県境を越えた方言ハンドブック』,はびろネット東西東西プロジェクト
- ・ 林四郎,南不二男(1973)『敬語講座 6 現代の敬語』,明治書院
- ・ 平澤洋一(1986)「滋賀県湖北方言の文法」『城西大学女子短期大学部紀要』第3巻,1号,城西大学女子短期大学部,pp.135-150
- ・ 宮治弘明(1987)「近畿方言における待遇表現運用上の一特質」『国語学』第151集,日本語学会,pp.38-56

—WEB サイト—

- ・ 長浜市市民生活部市民課(2026)「令和8年1月1日の人口と世帯数」,長浜市  
<https://www.city.nagahama.lg.jp/0000016464.html> (最終閲覧日 2026-1-14)
- ・ パワポでデザイン(2018)「PowerPoint で使える滋賀県全図。白地図無料ダウンロード」  
[https://power-point-design.com/ppt-design/shiga-for-powerpoint/#google\\_vignette](https://power-point-design.com/ppt-design/shiga-for-powerpoint/#google_vignette)  
(最終閲覧日 2026-1-14)
- ・ 本庁舎市民部市民保険課(2026)「人口と世帯数の推移(月ごと)」,米原市公式ウェブサイト  
[https://www.city.maibara.lg.jp/soshiki/seisaku/kohotoukei/profile/tokei/jinko\\_suii/1191.html](https://www.city.maibara.lg.jp/soshiki/seisaku/kohotoukei/profile/tokei/jinko_suii/1191.html) (最終閲覧日 2026-1-14)